2020年度

茨城大学大学院理工学研究科 履 修 要 項

博士前期課程

機械システム工学専攻 電気電子システム工学専攻 情報 エ 学 専 攻 都市システム工学専攻

2020年度 理工学研究科 学年曆

学年開始	4月 1日(水)
学年始休業	4月 1日(水)
入学式	4月 3日(金)
前学期(第1クォーター)授業開始	4月 9日(木)
第1クォーター授業終了	6月10日(水)
第 2 クォーター授業開始	6月11日(木)
前学期(第2クォーター)授業終了	8月12日(水)
夏季休業	8月13日(木)
	~
	9月20日(金)
後学期開始	9月21日(月)
後学期(第3クォーター)授業開始	9月29日 (火)
第 3 クォーター授業終了	11月30日(月)
第 4 クォーター授業開始	12月 1日(火)
冬季休業	12月26日(土)
	~
	1月 5日(火)
授業開始	1月 6日(水)
後学期(第4クォーター)授業終了	2月12日(金)
春季休業	2月24日(水)
	~
	3月31日(火)
学年終了	3月31日(火)

備考;5月 8日(金)は、「振替**水曜日**」として水曜日の時間割で授業を行う。 1月 7日(木)は、「振替**月曜日**」として月曜日の時間割で授業を行う。

理工学研究科博士前期課程

目 次

茨城大学大学院沿革抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
茨城大学大学院ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー・・・・	2
履修案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
科目ナンバリングコード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0
教育職員免許状の取得について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6
横断型教育プログラム履修案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 7
地域志向教育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 0
成績評価に関する疑義について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 1
茨城大学学位規則※・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 2
修士学位論文の審査及び最終試験実施要項※・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 7
茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程の 在学期間短縮修了(早期修了)に関する実施要項※・・・・・・・・・・	3 9
茨城大学大学院理工学研究科規程※・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 0
令和2年度年度授業時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 4
茨城大学工学部配置図等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 4

※各種規則は改正となる場合があります。学内掲示および国立大学法人茨城大学規則集(http://houki.admb.ibaraki.ac.jp/)にて最新の規則を確認して下さい。

茨城大学大学院沿革抄

	0 × 79 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1
昭和24年5月31日	国立学校設置法(昭和24年法律第150号)により、旧制の水戸高等学校、 茨城師範学校、茨城青年師範学校、多賀工業専門学校を包括し、文理学部・ 教育学部・工学部の3学部からなる新制大学として発足
昭和27年4月 1日	茨城県立農科大学を国に移管し、本学農学部を設置
昭和30年7月 1日	工業短期大学部を併設
昭和42年6月 1日	文理学部を改組し、人文学部・理学部・教養部を設置
昭和43年4月 1日	大学院工学研究科(修士課程)を設置
昭和43年5月 6日	第1回大学院入学式を挙行
昭和45年3月19日	第1回大学院学位記授与式を挙行
昭和45年4月 1日	大学院農学研究科(修士課程)を設置 ッ 大学院工学研究科(修士課程)機械工学第二専攻を増設
昭和48年4月 1日	大学院農学研究科(修士課程)農業工学専攻を増設
昭和51年4月 1日	大学院工学研究科(修士課程)情報工学専攻を増設
昭和54年4月 1日	大学院理学研究科(修士課程)を設置
昭和58年4月 1日	大学院理学研究科(修士課程)地球科学専攻を増設
昭和60年4月 1日	大学院工学研究科(修士課程)建設工学専攻を増設
昭和63年4月 1日	大学院教育学研究科(修士課程)を設置
平成 3年4月 1日	大学院人文科学研究科(修士課程)を設置
平成 5年4月 1日	大学院工学研究科(修士課程)を改組し、(博士前期課程、博士後期課程) を設置
平成 7年4月 1日	大学院工学研究科を大学院理工学研究科に名称変更 大学院理学研究科(修士課程)を廃止し、大学院理工学研究科(博士前期課程、博士後期課程)に再編成
平成12年4月 1日	大学院理工学研究科(博士前期課程)メディア通信工学専攻を増設
平成16年4月 1日	大学院理工学研究科 (博士前期・後期課程独立専攻) 応用粒子線科学専攻を 増設
平成21年4月 1日	大学院理工学研究科(博士前期課程)理学系3専攻及びシステム工学専攻を、 理学専攻(5系)及び知能システム工学専攻に改組
平成28年4月 1日	大学院理工学研究科(博士前期課程)理学専攻(5系)、物質工学専攻及び応用粒子線科学専攻を再編し、理学専攻(5コース)及び量子線科学専攻に改組大学院理工学研究科(博士後期課程)6専攻を再編し、量子線科学専攻、複雑系システム科学専攻及び社会インフラシステム科学専攻の3専攻に改組
平成30年4月 1日	大学院理工学研究科(博士前期課程)機械工学専攻及び知能システム工学専攻、電気電子工学専攻及びメディア通信工学専攻(3コース)、情報工学専攻(3コース)並びに都市システム工学専攻(2コース)を再編し、それぞれ機械システム工学専攻(6プログラム)、電気電子システム工学専攻(4プログラム)、情報工学専攻(4プログラム)並びに都市システム工学専攻(4プログラム)に改組

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程では、茨城大学大学院博士前期課程修了者として身に付ける知識、能力、姿勢に加えて、以下の能力、姿勢を身に付けることをもって、修士(理学)又は修士(工学)の学位を授与する。

- ① (専門分野の研究能力)
 - 専門とする科学・技術の分野に求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力
- ② (専門分野の課題解決能力)
 - 専門とする科学・技術の分野における課題を発見し、解決しうる能力
- ③ (人間社会の俯瞰的理解)
 - 人間社会における科学・技術の位置付けを理解できる能力
- ④ (説明·情報発信能力)
 - 携わった研究・技術開発の人間社会の中での位置付けを理解し、専門外の人にも説明できるとともに、社会一般に情報提供しうる能力
- ⑤ (地域活性化に貢献する姿勢)
 - 専門の研究・技術開発に携わることにより修得した課題解決能力を活かして地域の活性化に取り 組む姿勢

【機械システム工学専攻】

機械システム工学専攻では、以下の能力、姿勢を身に付けることをもって、修士(工学)の学位を 授与する。

- ① (専門分野の研究能力)
 - 機械システム工学分野に求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力
- ② (専門分野の課題解決能力)
 - 機械システム工学分野における課題を発見し、解決しうる能力
- ③ (人間社会の俯瞰的理解)
 - 人間社会における科学・技術の位置付けを理解できる能力
- ④ (説明·情報発信能力)
 - 携わった研究・技術開発の人間社会の中での位置付けを理解し、専門外の人にも説明できるとともに、社会一般に情報提供しうる能力
- ⑤ (地域活性化に貢献する姿勢)
 - 専門の研究・技術開発に携わることにより修得した課題解決能力を活かして地域の活性化に取り組む姿勢

【電気電子システム工学専攻】

電気電子システム工学専攻では、以下の能力、姿勢を身に付けることをもって、修士(工学)の学位を授与する。

- ① (専門分野の研究能力)
 - 電気電子システム工学分野に求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力
- ② (専門分野の課題解決能力)
 - 電気電子システム工学分野における課題を発見し、解決しうる能力
- ③ (人間社会の俯瞰的理解)
 - 人間社会における科学・技術の位置付けを理解できる能力
- ④ (説明·情報発信能力)
- 携わった研究・技術開発の人間社会の中での位置付けを理解し、専門外の人にも説明できるとともに、社会一般に情報提供しうる能力
- ⑤ (地域活性化に貢献する姿勢)
- 専門の研究・技術開発に携わることにより修得した課題解決能力を活かして地域の活性化に取り組む姿勢

【情報工学専攻】

情報工学専攻では、以下の能力、姿勢を身に付けることをもって、修士(工学)の学位を授与する。

- ① (専門分野の研究能力) 情報工学分野に求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力
- ②(専門とする課題解決能力)
- 情報工学分野における課題を発見し、解決しうる能力
- ③ (人間社会の俯瞰的理解) 人間社会における科学・技術の位置付けを理解できる能力
- ④ (説明・情報発信能力) 携わった研究・技術開発の人間社会の中での位置付けを理解し、専門外の人にも説明できると ともに、社会一般に情報提供しうる能力
- ⑤ (地域活性化に貢献する姿勢) 専門の研究・技術開発に携わることにより修得した課題解決能力を活かして地域の活性化に取り組む姿勢

【都市システム工学専攻】

都市システム工学専攻では、以下の能力、姿勢を身に付けることをもって、修士(工学)の学位を 授与する。

- ① (専門分野の研究能力) 都市システム工学分野又はサステイナビリティ学分野に求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力
- ② (専門分野の課題解決能力) 都市システム工学分野又はサステイナビリティ学分野における課題を発見し、解決しうる能力 ③ (人間社会の俯瞰的理解)
- ③ (人間社会の俯瞰的理解) 人間社会における科学・技術の位置付けを理解できる能力
- ④ (説明・情報発信能力) 携わった研究・技術開発の人間社会の中での位置付けを理解し、専門外の人にも説明できると ともに、社会一般に情報提供しうる能力
- ⑤ (地域活性化に貢献する姿勢) 専門の研究・技術開発に携わることにより修得した課題解決能力を活かして地域の活性化に取り組む姿勢

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

ディプロマ・ポリシーに示す教育目標を満たすため、単位の実質化を図り、各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行うとともに、学習成果の可視化に努め、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を推進する。

その教育課程編成の方針を以下に示す。

① (専門分野の研究遂行能力)

専門とする学問分野で求められる知識と技能に基づき、研究を遂行する能力を育成するため、演習、実習を中心とした専門科目を開講するとともに、複数指導教員制の下での組織的な研究指導を行う。

② (専門分野の課題解決能力)

専門とする分野の科学技術全体における位置付けを理解するとともに、課題を発見し解決しうる能力を育成するための科目を開講する。

③ (人間社会の俯瞰的理解)

人文科学や社会科学の要素を含む大学院共通科目の履修を修了要件とすることで、専門とする科学技術のあり方を異なった立場から多角的にとらえることができる能力を育成する。

④ (説明·情報発信能力)

人文科学や社会科学の要素を含む大学院共通科目の履修を修了要件とすることで、研究成果の人間社会の中での位置付けを理解して専門外の人にも説明できる能力を育成する。

(5) (地域活性化に貢献する姿勢)

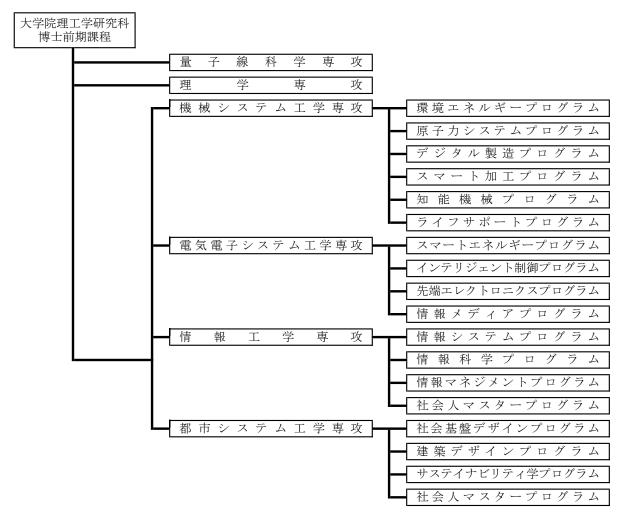
近隣に位置する先端的科学技術研究機関、企業及び茨城県等の自治体と連携することで、地域の活性化に取り組む姿勢を育成する。

◎履修案内

I. 教育組織

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程は、次の図のように、量子線科学専攻、理学専攻、機械システム工学専攻、電気電子システム工学専攻、情報工学専攻及び都市システム工学専攻により構成されてています。

さらに、機械システム工学専攻、電気電子システム工学専攻、情報工学専攻及び都市システム工学専 攻は各専攻の中にプログラムを設けています。



Ⅱ. 授業科目

茨城大学大学院は、知識基盤社会の構築を担う高度専門職業人養成と知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材の育成をめざしています。そのために、専門分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得するとともに、幅広い学識と専門分野に関連する基礎的素養を培うことを目標としています。これらの目標を実現するため、大学院授業科目は次のような科目で構成されています。

(1) 共通科目;

- 1)大学院共通科目・・・幅広い学識と俯瞰的視野及び職業的素養などを涵養するための科目です。
- 2) 研究科共通科目・・・理工学研究科が開講する科目で、専門に近い領域で基盤的な学識や素養を 涵養するための科目です。

(2) 専攻科目;

専門分野に関連する高度の専門的知識及び能力を修得するための科目です。

(3) 横断型プログラムの科目;

研究科・専攻をまたぐ横断的分野や特定の職種に特化した分野の科目です。プログラムを修了すると「プログラム修了証」が交付されます。

Ⅲ. 修了要件

博士前期課程を修了するためには、必修科目・選択必修科目・選択科目を合わせて30単位以上修得し、且つ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。 各専攻の修了に必要な単位数は、以下のとおりです。詳細な修了要件は、それぞれ専攻の課程表で確してください。

		共通	科目		専攻を	科目		
専 攻 名	プログラム名	大学院	研究科	専攻	プログラム	専 攻	選択	計
		共 通	共 通	必修	コア科目	選択必修		
機械システム工学専攻	全プログラム	2	3	11	4	10	0	30
電気電子システム工学専攻	全プログラム	2	3	12	5	8	0	30
情報工学専攻	情報システムプログラム	2	3	6	6	9	4	30
	情報科学プログラム	2	3	6	6	9	4	30
	情報マネジメントプログラム	2	3	6	6	9	4	30
	社会人マスタープログラム		3	8	6	9	4	30
都市システム工学専攻	社会基盤デザインプログラム	2	3	8	6	11	0	30
	建築デザインプログラム	2	3	8	6	11	0	30
	サステイナビリティ学プログラム	2	3	10	4	11	0	30
	社会人マスタープログラム ※ () の数字はプログラムコア科 目においてサステイナビリティ学 プログラムを選択した場合の要件	7	Å	8 (10)	- (2 ☆印の科目	2 0) 目区分を含 ⁻ 3	0	30

IV. 履修方法と評価

(1)科目履修

1) 単位修得の成績評価は、100点をもって満点とし、A+ (90点以上)・A (80点以上90点未満)・B (70点以上80点未満)・C (60点以上70点未満)及びD (60点未満)の評語で表します。A+、A、B、Cは合格とし、所定の単位が与えられ、Dは不合格とし、単位は与えらません

区分	評点基準	評価の内容
A+	90点以上100点まで	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上 90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
В	70点以上 80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
С	60点以上 70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず,再履修が必要である。

- 2) 単位修得済みの科目は、再度履修することはできません。
- 3) 以下 a~bの授業科目は、いずれか一方のみ履修することができます。
 - a. 『プラズマ応用工学 I 』(電気電子システム工学専攻開講科目)又は 『プラズマ物理学特論』(量子線科学専攻開講科目)
 - b. 『プラズマ応用工学Ⅱ』(電気電子システム工学専攻開講科目)又は 『プラズマ発生・制御学特論』(量子線科学専攻開講科目)

V. 学位論文の審査

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程における修士論文(及び研究成果報告書)の評価基準 評価基準

- (1)研究の目的及び当該学問分野における位置付け、加えて修士論文においては独創的な点が明確に記述されていること。
- (2) 研究・実験方法と解析結果を得たるための経過が明確に記述されていること。
- (3) 実験・観察結果ならびにデータ解析結果、もしくは数学的論理展開が明確に記述されていること。
- (4) 考察が論理的に記述されていること。

修士論文(及び研究成果報告書)の評価は、上記の評価基準に基づき、専門分野を同じくする委員から構成される審査会が行う。

最終試験は、修士論文の発表ならびにその内容に関する質疑応答で行われ、「合格」「不 合格」を判定する。

【参 考】

大学院設置基準

(成績評価基準等の明示等)

- 第14条の2 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業 及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び 厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にし たがつて適切に行うものとする。

茨城大学大学院学則

(成績評価基準等の明示等)

- 第16条の2 研究科は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業 及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 2 研究科は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び 厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にし たがつて適切に行うものとする。

VI. 横断型教育プログラムの履修について

大学院理工学研究科博士前期課程では、一つの専門性にとどまらず、分野横断的な複数領域の履修を可能にする、以下の2つの特色ある横断型教育プログラムを設けています。所属する専攻の修了要件とは別に、各プログラムの修了要件を満たした学生には、理工学研究科長名で「プログラム終了証」が授与されます。

- (1) 先進創生情報学教育研究プログラム
- (2) サステイナビリティ学プログラム

Ⅶ. 履修申告に関する予定(日程等の詳細は刑事にて周知する)

4月 【前学期(1学期・2学期)】履修登録期間

「研究指導計画書」の提出(新入生及び2年次で内容を変更する者)

【前学期(1学期·2学期)】履修登録修正期間

10月 【後学期(3学期・4学期)】履修登録期間

【後学期 (3学期·4学期)】履修登録修正期間

- ※1 履修登録に関する手続き期間及び詳細、学期はじめに掲示等により案内があります。
- ※2 登録忘れ等の手続き漏れは原則認められません。
- ※3 集中講義は、都度掲示により、実施期間、履修登録時期等の案内があります。

◎課程表

(1)機械システム工学専攻

○専攻科目について

下表の専攻科目より①~③の要件を満たしつつ、25単位を修得しなければならない。

- ①【専攻必修】 ◎印の必修科目11単位を修得すること ②【プログラムコア科目】自身が選択するプログラムのプログラムコア科目から4単位を修得すること。
- ③【専攻選択必修】下表から①及び②を除いて10単位を修得すること

〇共通科目について

大連科目に フリー 大学院共通科目2単位及び研究科共通科目3単位、計5単位を修得しなければならない。 ただし、これら計5単位の内訳は、「倫理科目」「英語科目」「社会理解科目」「情報系科目」「体験型科目」のカテゴリーから各1単位修得すること。(p. 16参照)。なお機械システム工学専攻においては、「機械システム工学専攻学外実習」で「体験型 科目」のカテゴリを充足することができる。ただし、機械システム工学専攻学外実習は研究科共通科目の3単位には算入されない ことに注意すること。

	科目区		極类科目の女教		40 V/ *4. P			単			ß	開講	時期	1			-777	-44	専	科目	
	目 区		授業科目の名称		担	当教	負	位		1 [£]	F次			2年	次		曜日	講時	修免	ナンバ リング	備考
	分							数	1Q	25	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				コード	
	環プ境		熱力学特論	田	中	光	太郎	2	0								火	3.4	0	N-THE-511	(サス)
	ロエ グネ ラル		流体力学特論	李		艶	栄	2				0					火2	·木4	0	N-FLE-513	(サス)
	ムギー		伝熱工学特論	稲	垣	<u> </u>	照 美	2	0								火	1.2	0	N-THE-531	(サス)
	原プ子		原子力エネルギー工学特論	田	4	1 /	伸 厚	2	0								月	4.5	0	N-NUE-513	(サス)
	ァ ロ グ ラ ス		原子炉構造工学特論	関	東		康祐	2	0								木	2.3	0	N-NUE-511	(サス)
	ムテム		エネルギー安全工学特論	松	: 木	† ;	邦仁	2				0					火3	·金2	0	N-NUE-511	(サス)
			機械システム設計特論 I	清		水	淳	1	0								水	2	0	N-MFE-531	(サス)
プ	プログル グログル		機械製造技術特論	乾		正	知	1	0								木	1	0	N-COA-633	
ログ	ログル		生産加工技術特論	周		1/	波	1	0								木	5	0	N-MAS-631	(サス)
ラ	グラム		計測工学特論 I	小	賃	ţ :	哲平	1		С)						金	1	0	N-MAE-531	(サス)
ム			計測画像処理特論	尾	源	į,	裕 隆	2		С)						月4	·木4	0	N-ICT-511	
コア	プマ		精密加工学特論	山	峪		和彦	2				0					火4	·金3	0	N-MEW-511	(サス)
科目	プログラムスマート加工	*	塑性変形学特論	伊	· 膊		吾 朗	2				0					月	3.4	0	N-MEW-532	(サス)
Н	ムエ		材料設計学特論	倉		本	繁	2		С)						火5	·木3	0	N-MAE-511	(サス)
			人工知能特論	竹	. H	3 ;	晃 人	1		0	(木	3		N-MAI-511	
	プ知中的		機械学習特論	鈴	· オ	; ;	智也	1	0								火	5		N-INI-531	
	世グラム		発展ロボット工学特論	福		7 -	泰宏	1		С)						木	2	0	N-INM-511	
	が械		移動ロボット工学特論	城	: [f i	直 司	1				0					木	4	0	N-INM-631	
			アドバンスト制御工学特論	楊	i	子	江	2				0					火3	·金3	0	N-MAI-531	
	ラ	*	医用工学特論	増		澤	徹	2		С)						金	4.5	0	N-BIE-533	(サス)
	プイ ロフ		生体機能計測学特論	長	Щ	1 :	和亮	1				0					火	4	0	N-MFE-633	(サス)
	グサ ラポ ムー		デジタル制御特論	近		藤	良	2	0								火3	·金4	0	N-C0E-531	(サス)
	1		介助ロボット工学特論	森		善善	_	1		С)						火	4		N-INM-631	(サス)
			原子炉物理学特論	_			拓 志	2			0						月	4.5		N-NUE-611	
			先進エネルギー材料特論	_	. JI	:	正 敏	2									金	5		N-NUE-611	
			核融合エネルギー工学特論	鈴		木	哲	2			0		h				金	2.3		N-NUE-611	
			原子力材料工学特論I	菊				+-	0								火	5		N-NUE-611	
			原子力材料工学特論Ⅱ	-			賢司	1		С)						木	4		N-NUE-611	
	プ		中性子ビーム実習	-	東		康祐	2										_		N-PRA-621	集中講義
	П		熱機関学特論	金		野	満			С							火	3.4	\bigcirc	N-THE-611	
	グラ		流体機械工学特論	西		泰		_	_		0							·木3	_	N-FLE-611	(サス)
	4		機械工作法特論				申英				-	0					水	1.2	_	N-MAE-611	(サス)
	横		高分子材料学特論				雅 史	-	+			0					月	5		N-SOM-531	(サス)
	断		材料力学特論	未			定	2	+			0					木	1.2	-	N-MOM-631	(サス)
	科 目 —		材料強度学特論			孝		2	4		0							·木2	L-	N-MOM-611	(サス)
			機械材料工学特論	車		田	亮亮	4	-			0						·金4	_	N-MAE-611	(サス)
			鉄鋼材料学特論	<u> </u>		• •	純也	-	4		0							·木1	-	N-MMP-611	(サス)
			機械力学特論		· 小 · 才		年美					0						·木5	-	N-MED-631	(サス)
			機構学特論				半平	_									水		1	N-MED-611	(サス)
			非線形ダイナミクス特論	_		_	<u>+ +</u> 仁	2	_	С								·木5	-	N-MED-611	(サス)
			クトルアメノクククイトノンク付開	7		4.1	1—	4	1	\cup	1						ЛΔ	/N0	\cup	011	(ソハ)

科				単			閉	非	時期	l l						科目	
目区		授業科目の名称	担当教員	位		1年	沙			2年	次		曜日	講時		ナンバ リング	備考
分				数	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		,		コード	
		生体材料工学特論	尾関 和秀	2				\bigcirc					月2	·木3	\circ	N-BIE-611	(サス)
		生体機械工学特論	長 真 啓	2				\bigcirc					月	4.5	0	N-BIE-631	(サス)
		アクチュエータ工学特論	北山 文矢	2			\bigcirc						月2	·木4	0	N-COE-611	(サス)
		機械システム設計特論Ⅱ	清 水 淳	1		0							水	2	0	N-MFE-531	(サス)
		計測工学特論Ⅱ	小貫 哲平	1		0							月	3	\circ	N-MAE-531	(サス)
		生体ロボット工学特論	井上 康介	2				\bigcirc					木3	·金1	0	N-INM-631	
		メカトロニクス特論 I	休 講	1			\bigcirc						_	_		N-ELD-511	
プ		メカトロニクス特論Ⅱ	休 講	1)						_		N-ELD-511	
D D		数值計算法特論	坪井 一洋	1		0							火	2	0	N-CSC-531	
グ		情報システム特論	岩崎 唯史	2	\circ								火2	·金2	0	N-CSC-511	
ラム		統計的信号処理特論	関根 栄子	2		0							火3	·金3	0	N-MAI-511	
横		知能情報学特論	近 藤 久	2				\bigcirc					火2	·金2	0	N-INI-531	
断		コンピュータ科学特論	梅津信幸	1				\bigcirc					木	2	0	N-ICT-531	
科目		脳科学特論	星 野 修	1	0								火	4	0	N-PIP-611	
Ħ		機械システム工学専攻学外実習	専 攻 長	2									_	_		N-INT-531	インターンシップ科目
	0	機械システム工学特別実験Ⅰ	各指導教員	2)							水	3~5		N-EXP-521	集中講義
	0	機械システム工学特別実験Ⅱ	各指導教員	2)					水	3~5		N-EXP-621	集中講義
	0	機械システム工学特別演習Ⅰ	各指導教員	2					C)			水	3~5		N-EXP-521	集中講義
	0	機械システム工学特別演習Ⅱ	各指導教員	2)	水	3~5		N-EXP-621	集中講義
	0	機械システム工学輪講Ⅰ	各指導教員	1	\circ								月	5		N-EXP-521	集中講義
	0	機械システム工学輪講Ⅱ	各指導教員	1				\bigcirc					_	_		N-EXP-621	集中講義
	0	機械システム工学輪講Ⅲ	各指導教員	1					\bigcirc					-		N-EXP-621	集中講義

開講時期欄の数字は開講期間に修得できる単位数を示す。 *印は英語での授業を予定している科目を示す。 備考欄(サス)はサステイナビリティ学プログラムにおける機械システム工学専攻が指定する専門科目を示す。

(2) 電気電子システム工学専攻

○専攻科目について

下表の専攻科目より①~③の要件を満たしつつ、25単位を修得しなければならない。

- ①【専攻必修】◎印の必修科目12単位を修得すること。 ②【プログラムコア科目】自身が選択するプログラムのプログラムコア科目から5単位を修得すること。
- ③【選択必修科目】8単位を下記の通り修得すること。

所属するプログラム以外のプログラムコア科目から3単位、科目区分Aから3単位、科目区分Bから2単位を 修得すること。

〇共通科目について

大学院共通科目2単位及び研究科共通科目3単位、計5単位を修得しなければならない。 ただし、これら計5単位の内訳は、「倫理科目」「英語科目」「社会理解科目」「情報系科目」 「体験型科目」のカテゴリーから各1単位修得すること(p.16参照)。

禾					単			月	昇講	時期	蚏					専	科目	
					位		1年	淡			2年	淡		曜日	講時	修品	ナンバ リング	備考
5					数	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1	H-(1		コード	
	スマ	環境・電力エネルギー工学	田中 正柳平 丈	志志	1	0								火	1	0	N-ELE-611	(サス)
	プー	大電流エネルギー工学	柳平丈	志	1				0					火	4	0	N-ELE-533	(サス)
	ロト グエ	核融合プラズマ工学	三枝 幹	雄	2	(5							木	2	0	N-PLS- 513-COC	(サス)
	ラネ ムル	電磁エネルギー工学	内田 晃	介	1		0							火	3		N-ELE-531	(サス)
		レーザーエネルギー工学	辻 龍	介	1	0								月	3	0	N-APP-511	(サス)
		プラズマ応用工学	佐藤 直	幸	1				0					金	4		N-PLS-613	(サス)
		電機システム解析	祖田直	也	1			0						木	4	0	N-CSC-511	(サス)
	イン	アクチュエータ制御	杉谷 栄	規	1	0								月	2	0	N-COE-511	(サス)
	プテプリ	マルチエージェント制御	杉谷 栄	規	1				0					月	1			
	ロジーグー	パワーエレクトロニクス応用	鵜野 将	年	1	0								木	3	0	N-POE-511	(サス)
	ラン	非線形システム解析	赤羽秀	郎	1				0					月	3	0	N-ANA-531	(サス)
プロ	٦ F	認知システム工学	矢内 浩	文	1		0							水	2	0	N-COS-531	(サス)
グ	制御	知能工学	上原清	彦	1			0						木	5	0	N-INI-511	(サス)
ラ		システムインタフェース	山田 光	宏	1		0							金	2	0	N-HII-531	(サス)
ムコ	先	ナノ物性工学	和田 達	明	1		0							火	2	0	N-ELM-511	(サス)
ア	端工	ナノエレクトロニクス工学	青野 友	祐	1	0								金	3	0	N-NMS-511	(サス)
科	ロカ	エネルギーデバイス工学	小峰 啓			0								月	4	0	N-NMS-511	(サス)
目	ログトロラ	超伝導エレクトロニクス	島 影	尚	1				0					木	4	0	N-ELD-513	(サス)
	. 1	レーザ工学	中村 真	毅	1		0							月	3	0		
		光エレクトロニクス応用	今 井	洋	1			0						火	3	0	N-OED-511	(サス)
		光デバイス工学	渡邉 ひろ	らし	1				0					金	2		N-OED-511	(サス)
	情	光通信メディア工学	横田 浩	久	1				0					水	2	0	N-OPE-511	(サス)
	報	情報光学	鵜 野 克					0						月	2	0	N-OPE-531	(サス)
		情報伝送システム	那 賀	明	1	0								月	1	0	N-CNE-511	(サス)
	ィアプ	ワイヤレスネットワーク	梅比良 正	弘	1	0								火	4	0	N-CNE-513	N2相当の日本語能力を持たない学生が複数名受講の場合に、英語を併用する。 (サス)
	ログ	通信信号処理	宮嶋 照	行	1				0					月	2	0	KM-CNE- 511	(サス)
	ラム	光通信システム工学	本田 奈	月	1		0							水	3		N-CNE-511	
	Δ	マルチメディア通信工学	青 笹 真	_	1				0					月	4		N-CNE-511	
	А	信号処理回路	塚 元 康	輔	1	0								木	1	0	N-ELC-511	(サス)
	А	パワーデバイス	鵜 殿 治	彦	1		0							火	1	0	N-ELD-511	(サス)
プロ	А	特別輪講	専 攻 教	員	1									月	5		N-SMI-523	
グ	А	テクニカルプレゼンテーション	各指導教	員	1)					月	5		N-PRE-523	
ラム	А	アナログ回路設計	木 村 孝	之	1			0						火	2	0	N-ELD-511	(サス)
横横	А	デジタル回路設計	武 田 茂	樹	1	0								火	3	0	N-ELC-511	(サス)
断	В	* センシングネットワーク	王 瀟	岩	1	0								金	4	0	N-NCE- 512-INF	(サス)
科目	В	コンピュータネットワーク	宮島 啓	_	1		0							金	4	0	N-CSN-511	(サス)
"	В	電気・機械エネルギー変換工学	岩路 善	尚	1				0					火	1		N-ELE-613	(サス)
	В	電気・化学エネルギー変換工学	田中正	志	1				0					金	1	0	N-ENE-511	(サス)

禾	}			単			厚	開講	時期	朔						科目、	
	₹			位		1年	次			2年	次		曜日	講時	修免	ナンバ リング	備考
5				数	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		. ,		コード	
プ	0	電気電子工学特別研究 I	各指導教員	2									金	5		N-EXP-521	
ロ グ	0	電気電子工学特別研究Ⅱ	各指導教員	2				$\overline{}$					金	5		N-EXP-521	
ラム	0	電気電子工学特別研究III	各指導教員	2					(金	5		N-SMI-521	
横	0	電気電子工学特別研究IV	各指導教員	2							($\overline{}$	金	5		N-SMI-521	
断科	0	組込みシステム実践	専 攻 教 員	2			(火	5		N-EST-521	
目	0	先端電気電子工学トピックス	専 攻 長	2									火	5	0	N-SMI-521	

開講時期欄の数字は開講期間に修得できる単位数を示す。 *印のついた科目は英語での授業を予定している科目を示す。 備考欄(サス)はサステイナビリティ学プログラムにおける電気電子システム工学専攻が指定する専門科目を示す。

(3)情報工学専攻

○専攻科目について

下表の専攻科目より①~④の要件を満たしつつ、25単位を修得しなければならない。① 【専攻必修】 \bigcirc 印の必修科目6単位を修得すること

- ①【守攻む修】◎印の心修科目0単位を修得すること ②【プログラムコア科目】自身が選択するプログラムのプログラムコア科目から5単位を修得すること。 ③【専攻選択必修】「経営系」「組込み系」「データ科学系」の科目群から各2単位を修得すること ④【選択科目】上記①~③を除いて8単位を修得すること。ただし、この内4単位までは大学院・研究科共通科目(下記「共通科目について」の要件5単位を除く)、他専攻・他研究科・他大学の科目を算入することができる。

○共通科目について

大学院共通科目2単位及び研究科共通科目3単位、計5単位を修得しなければならない。

※社会人マスタープログラム(社会人特別選抜入学者対象)

「社会人マスタープログラム」の修了要件は別途下記の通り設定する。

【専攻必修】下表の専攻科目より◎印及び●印の必修科目8単位

【プログラムコア科目】情報マネジメントプログラムのコア科目群から5単位

【専攻選択必修】

- ・「経営系」「組込み系」「データ科学系」の科目群から各2単位
- ・選択必修科目として「統計・情報数理科学」、「情報処理技術論」及び研究科共通科目の情報系科目の中から3単位 【選択科目】下表の専攻科目,大学院共通科目,研究科共通科目,他の専攻,研究科及び他大学院の授業科目から5単位 以上を修得すること。

			授業科目の名称			単			開	講	時其	玥					専	科目	
科	目区4	分		担当	4教員	全位		1年	三次			2年	次		曜	講	修	ナンバ リング	備考
			科目名			数	1ດ	20	3Q	4ດ	1ດ:	20	3Q 4	4Q	日	時	免許	リンク コード	
			システム工学特論	鎌田	賢	1	\bigcirc					- ~			火	1	0	N-CPS-512	(サス)
			システム工学演習	鎌田		1	_		\bigcirc						火	1		N-CPS-523	(サス)
	プ情報		通信方式特論	羽渕	裕真	1	0								水	1	0	N-CSN-511	(サス)
	ロシ		ディジタル通信特論	羽渕	裕真	1			0						水	1		N-CNE511	(サス)
	グラム		無線通信技術論	小 澤	佑 介	1			\circ						水	2		N-CNE511	(サス)
	44		ネットワークプログラム設計	大瀧	保広	1	0								月	3	0	N-CSN-511ACI	(サス)
			ヒューマンインタフェース設計	未	定	1											0	N-HII-511-ACI	2020年度休講
			情報セキュリティ特論	米 山	一樹	1			\circ						木	2	0	N-IFS-511-ACI	(サス)
			データマイニング特論	新 納	浩 幸	1			\circ						木	1	0	N-POI-511	(サス)
プロ			計算機知能特論 I	山田	孝 行	1	\bigcirc								火	2	0	N-SFC-511	(サス)
グ	プ焙		計算機知能特論Ⅱ	山田	孝 行	1			\circ						火	2	0	N-SFC-511	(サス)
ラム	ロ報		理論計算機科学特論	藤芳	明 生	1		\circ							水	2	0	N-CSC-511	(サス)
ムコア	プログラム 情報科学		理論計算機科学演習	藤芳	明 生	1			\circ						水	2		N-CSC511	(サス)
科	Δ,		知能情報学特論	笹井		1	0								水	2		N-CSC511	(サス)
目			数理分析・ビッグデータ戦略演習	未	定												0	N-MAI+531	2020年度休講
			知識情報処理演習	古宮	嘉那子	1			\circ						木	2	0	N-SFC-531	(サス)
			Web工学特論	外岡	秀行	1	0								木	2	0	N-CSN-511-ACI	(サス)
	情		エンタープライズソフトウェア工学	上田	賀一	1		0							月	2	0	N-SST-511-ACI	
	プロマン		エンタープライズソフトウェア工学演習	大瀧	保広	1		0							金	1	0	N-SST-511-ACI	(サス)
			インフォメーションモデル論		信一郎	1	0								火	3	0	N-MUD-511-ACI	(サス)
	グラムン		デザインパターン演習		信一郎	1			0						火	1	0	N-SST-531	(サス)
	ント	,	情報メディア応用演習	佐々		1			0					_	水	1	0	N-MUD-531	(サス)
	·		情報システムモデル論	高橋		1			0					_	-	1	0	N-PCI-511	(サス)
			バーチャルデザイン演習	柴日		1			0						火	2	0	N-HII-531	(サス)
		H	企業戦略特講	村中		1		0							金^	2.3		N-MIT-511-ACI	
	経		マーケティング戦略特論	村中		1		0							金	2.3		N-MIT-511-ACI	
	営		情報技術経営論	原口		1		0							水	1		N-MIT-531-ACI	(サス)
	系		情報経済学	野口		1		0							木	1		N-ECO-511	(サス) (サス)(注2)
			ソフトウェアビジネスモデル論	大 野	克 己	1	0								水	3•4	0	N-MIT-531-ACI	研究科共通科目
プ			ビジネスモデル事業戦略論	大 野	克己	1		0							水	3•4		N-MIT-531-ACI	(サス)(注2)
D D			組込みソフトウェア工学	上田	賀一	1											0	N-SST-511-ACI	2020年度休講
グラ	4 0		組込みシステム開発論	上田	賀一	1	0								月	2	0	N-SST-511-ACI	1.
A	組込		LSI設計·開発技術演習	武 田	茂 樹	2	\circ	0							水	3-5	0	N-EST-631-ACI	(サス)(注2) 研究科共通科目
横断	み系		リアルタイム組込みシステム開発論	小身	2 忍	1			0						水	3•4		N-EST-611-ACI	(サス)(注3) 研究科共通科目
科目	<i>/</i> /\		リアルタイムプログラミングとRTOS	小身		1			\circ						水	3 • 4		N-EST-611-ACI	(サス)(注3) 研究科共通科目
		Ш	生体情報計測演習	芝 軒		1		0							月	3	0	N-PIP-531	(サス)
	デ		機械学習特論	新納	浩幸	1		0							火	1		N-POI-511	(サス)
	 タ	Щ	人工知能特論		嘉那子	1	0				-		_		金	2		N-PCI-511	(サス)
	科		数理データ科学特論	佐々		1	0			_					金	1		N-INF-511	(サス)
	学 系		グローバル情報処理特論	外岡	秀行	1		_	\circ	_			_	_	金	1		N-ICT-511	(サス)
	ボ	Ш	情報セキュリティ演習	米 山	一樹	1		\bigcirc							木	2	0	N-IFS-531	(サス)

		0	ICTソリューション実践 I	上笹井町 口人郎 再工 香竜	1		0				ب	火	2•3	0	N-SMI-531	
プログ	専門	0	ICTソリューション実践Ⅱ	上田井 賀一人郎 原馬橋 竜一	1			0			,	月	2•3	0	N-SMI-531	
ラム横	研究・カ	0	情報工学特別研究 I	各指導教員	2		\circ				5	火木金	4		N-RES-631	
断科目	実践	0	情報工学特別研究Ⅱ	各指導教員	2						7	火木金	4		N-RES-631	
			情報工学特別研究Ⅲ	各指導教員	2				C		2	火木金	4		N-RES-631	
			情報工学特別研究IV	各指導教員	2					0	2	火木金	4		N-RES-631	
			情報産業インターンシップ	上田賀一	2							_	_		N-INT-621-ACI	(注4)
プ.	マム	•	情報システム技術特論	鎌田 賢・他	2	2						-	_		N-CSN-511	社会人のみ履修可
ログ	マスター社会人	_	情報処理技術論	新納 浩幸・他	1	1						_	-			社会人のみ履修可
グラ	g 八 		統計·情報数理科学	山田 孝行・他	1	1						_	_		N-MAI-511	社会人のみ履修可
ム			研究科共通科目(情報系)から		1	1										

※ enPiTビジネスシステムデザイン分野教育プログラム(単位互換制度による認定対象プログラム)

社会やビジネスニーズに対する実用的なソリューションとしてのビジネスアプリケーションやシステムデザインを自ら提案、開発し、顧客の 潜在的要求を満たすことのできる人材育成を目的としたプログラムです。単位互換制度により、他大学院科目として認定される科目です。 修了要件の「選択」に算入されます。(「選択」の単位が4単位を越える場合には要件外の単位となります。)

	授業科目の名称	单			開講時期						n=1=1	≑蛛	専	科目	
科目区分	科目名	担当教員	位	1年次 2年			2年次			曜日	講時	修免	ナンバ リング	備考	
	科日名		数	1Q	2Q	3Q 4Q	1Q	2Q	3Q4	Q		?	許	П П	
enPiT	プロジェクト実践ワークショップ	筑波大学	2		0						_	_		N-PRA-631	
BizSysD	イニシアティブプロジェクト I	筑波大学	2			0					_	_		N-PRA-631	(注5)

開講時期欄の数字は開講期間に修得できる単位数を示す。

担当教員欄に他大学名称のある科目は「他の大学院の授業科目(理工学研究科規程第12条、第2項及び第3項)」に該当する。

備考欄(サス)はサステイナビリティ学プログラムにおける情報工学専攻が指定する専門科目を示す。

備考欄(注1〕第2Qの前半に「マーケティング戦略特講」,後半に「企業戦略特講」が開講される。

「企業戦略特講」の履修登録は、DreamCampusの集中講義用の画面で行うこと。

備考欄(注2、「ソフトウェアビジネスモデル論」「ビジネスモデル事業戦略論」は隔週で、「LSI設計・開発技術演習」は変則隔週で開講される。

備考欄(注3)第3Qの前半に「リアルタイム組込みシステム開発論」,後半に「リアルタイムプログラミングとRTOS」が開講される。

「リアルタイムプログラミングとRTOS」の履修登録は、DreamCampusの集中講義用の画面で行うこと。

備考欄(注4.情報産業インターンシップにおいて4週以上の長期実習を履修した場合,研究科共通科目:Off-Class-Projectを分割認定する。産業界か 学生はこれを既習得科目として認定する。

備考欄(注5)他大学学生とのチームを組み、ネットコミュニケーションを利用してビジネスアプリケーションを開発する。

(4) 都市システム工学専攻

○専攻科目について

下表の専攻科目より①~④の要件を満たしつつ、25単位を修得しなければならない。

- ①【専攻必修】自身が選択するプログラムコア科目から◎印の必修科目8単位(サステイナビリティ学プログラムにおいては10単位)修得する
- ②【プログラムコア科目】自分が選択するプログラムのプログラムコア科目から専攻必修を除いて6単位(サステイナビリティ学プログラムにおいては4単位)を修得すること。
- ③【選択科目】〇印の科目から6単位を修得すること。
- ④【選択科目】下表から①~③を除いて共通科目、専攻科目および他専攻の科目の中から5単位を修得すること。

〇共通科目について

大学院共通科目2単位及び研究科共通科目3単位、計5単位を修得しなければならない。

ただし、これら計5単位の内訳は、「倫理科目」「英語科目」「社会理解科目」「情報系科目」「体験型科目」のカテゴリーから各1単位修得すること。(p.16参照)。

なお、都市システム工学専攻においては、「サステイナビリティ学インターンシップ」「建築実務実習」「都市システム工学専攻学外実習」のいずれかで「体験型科目」のカテゴリーを充足することができる。ただし、この場合においても必ず研究科共通科目から3単位修得しなければならない。

※社会人マスタープログラム(社会人特別選抜入学者対象)について

「社会人マスタープログラム」の修了要件は別途下記の通り設定する。

「社会基盤デザインプログラム」「建築デザインプログラム」「サステイナビリティ学プログラム」からプログラムを1つ選択し、以下の修了要件を満たすこと。

- ・ ①自分が選択したプログラムのプログラムコア科目群から◎印の必修科目8単位(サステイナビリティ学プログラムは10単位)修得すること。
- ②指導教員の履修指導に基づき、大学院共通科目、研究科共通科目及び下表の専攻科目から22単位(サステイナビリティ学プログラムは20単位)を修得すること。

※建築士試験の大学院における実務経験要件について

建築士試験の大学院における実務経験要件(建築意匠及び建築構造)を満たすためには下記の内容を満たすこと。

- (1) 実務経験年数を2年とする場合に必要となる単位数は、次の(a)~(c)の合計が30単位
- (a)備考欄に建築実務と記載された科目の単位数(14単位以上)
- (b)備考欄に演習【建築意匠/建築構造】と記載された科目8単位
- (c)備考欄に講義【建築意匠】と記載された科目8単位又は講義【建築構造】と記載された科目8単位。ただし、意匠と構造を混ぜての8単位はできない。
- (2) 実務経験年数を1年とする場合に必要となる単位数は、次の(a)~(c)の合計が15単位以上
- (a)備考欄に建築実務と記載された科目の単位数の単位数(4単位以上)
- (b)備考欄に演習【建築意匠/建築構造】と記載された科目8単位
- (c)備考欄に講義【建築意匠】と記載された科目8単位又は講義【建築構造】と記載された科目8単位。ただし、意匠と構造を混ぜての8単位はできない。

	科目					単			厚	昇講	時期	蚏			曜	⇒韭	専	科目 ナンバ	
	区			授業科目の名称	担当教員	位		1年	次			2年	次		唯日	講時		リング	備考
	分					数	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				コード	
		0		社会基盤デザイン特別演習 I	各指導教員	2	(\supset							1Q 2Q	水1 水4		N-SMI-521	
	社会	0		社会基盤デザイン特別演習Ⅱ	各指導教員	2				$\overline{}$					水	4		N-SMI-521	
	会基	0		社会基盤デザイン特別研究 I	各指導教員	2					()			水	4		N-RES-621	
	盤デ	0		社会基盤デザイン特別研究Ⅱ	各指導教員	2							(\supset	水	4		N-RES-621	
	ガザイ			構造解析学特論	車谷 麻緒	2	0								火2	·金2	0	N-SEM- 511	講義【建築構造】 (サス)
	ン			社会基盤情報処理特論	原田 隆郎	2				0					火2	2~3	0	N-SEM- 611	(サス)
	プログ			応用土質力学特論	小 林 薫	2		0							火4	·金4	0	N-GEE- 531	講義【建築構造】 (サス)
	ラ			応用水理学特論	信岡 尚道	2	0								月5	·木5	0	N-HYE- 611	(サス)
	4			土木計画学特論	金 利 昭	2	0								月3	·木3	0	N-CTE- 631	(サス)
プロ			*	交通計画特論	山 田 稔	2			\bigcirc						月1	·木1	0	N-CTE- 633	(サス)
グラ		0		建築デザイン特別演習 I	各指導教員	2	(\supset							1Q 2Q	水1 水4		N-ABE- 521	
ムコ		0		建築デザイン特別演習Ⅱ	各指導教員	2				\supset					水	4		N-ABE- 521	
ア		0		建築デザイン特別研究 I	各指導教員	2					($\overline{}$			水	4		N-RES-621	
科目	建	0		建築デザイン特別研究Ⅱ	各指導教員	2							(\supset	水	4		N-RES-621	
H	築デ			建築構造デザイン学特論	成田和彦	2	0								月3	•木3	0		講義 【建築意匠/建築構造】
	ザイ			建築都市計画学特論	熊澤貴之	2	0								火2	·金2	0	N-TAP- 511	講義【建築意匠】
	ン			建築環境設計学特論	辻村 壮平	2		\circ							火1	·金1	0	N-AEE- 511	講義【建築意匠】
	プロ			建築史•意匠特論	一ノ瀬彩	2		\bigcirc								·金2	0	N-AHD- 511	講義【建築意匠】
	ログラム			建築都市デザインスタジオⅡ	久野 靖広	4		0							水2 金3	~5 ~3 ~5		N-PRA- 621	【建築実務】
				建築都市デザインスタジオⅢ	内藤 将俊	4			0						水2	~5 ~3 ~5		N-PRA- 621	【建築実務】
				ワークショップ	稲用 隆一	2												N-PRA- 621	通年 集中講義 演習 【建築意匠/建築構造】

	科目区分			授業科目の名称	担当教員	単位数		1年 2Q	次	見講 4の		2年		4Q	曜日	講時	修免	科目 ナンバ リング コード	備考
		0)	サステイナビリティ学特別演習 I	各指導教員	2	,)	9 92	1 9	1 90		9	190	1Q 2Q	水1 水4	н	N-SMI- 521-SEP	
	サス	0		サステイナビリティ学特別演習Ⅱ	各指導教員	2									水	4		N-SMI- 521-SEP	
~	テ	0)	サステイナビリティ学特別研究 I	各指導教員	2					(水	4		N-RES- 621-SEP	
プロ	イナ	0)	サステイナビリティ学特別研究Ⅱ	各指導教員	2									水	4		N-RES- 621-SEP	
グラム	ビリテ	0)	サステイナビリティ学最前線	田村誠・横木裕宗	2									I	1		K-INS- 522-SEP	前学期集中講義
コ	イ			生態系保全再生・モニタリング特論	横木裕宗·他	2				\bigcirc					月2	∼ 3	0	N-HYE- 613	(サス)
ア科	学プ		_	沿岸環境形成工学特論	横木 裕宗	2			0						火4	~5	0	N-HYE- 613	(サス)
目	ログ		*	国際実践教育演習	田村 誠・他	2									_	_		K-INS- 523-SEP	通年集中講義
	ラ	-		国内実践教育演習	田村 誠・他	2									_	_		K-INS- 523-SEP K-INS-	通年集中講義
	ム			ファシリテーション能力開発演習 I	山岸裕	1									_	_		531-SEP K-INS-	集中講義
				ファシリテーション能力開発演習Ⅱ	山 岸 裕	1									_	_		531-SEP	集中講義
		С	*	地震工学特論	呉 智 深	2			0						月2	木2	0	N-SEM- 611	講義【建築構造】 (サス)
		С)	地盤防災工学特論	榎本 忠夫	2	0								月1	·木1	0	N-GEE- 531	講義【建築構造】
		С)	リスクマネジメント特論	平田 輝満	2				\circ						~ 5 ~ 3	0	N-CTE- 631	講義【建築意匠】 (サス) R2年度休講
		С	*	維持管理工学特論	呉 智 深	2			\bigcirc						火1	·金1	\circ	N-SEM- 611	講義【建築構造】
		С	*	国土空間情報特論	桑原祐史	2	0								月4	木4	\circ	N-CTE- 513	(サス)
		С	*	水質工学特論	藤田昌史	2	0								火1	•金1	0	N-CEE- 613	(サス)
7		С)	建築材料学特論	沼尾達弥	2	0								月2	·木2	0	N-BSM- 611	講義 【建築意匠/建築構造】
2	ブ ラ	С)	建築都市デザインスタジオ I	熊澤 貴之	4	0								水2	$ \begin{array}{c} \sim 5 \\ \sim 3 \\ \sim 5 \end{array} $		N-PRA- 621	【建築実務】
档路	沂			建築環境デザイン演習	辻村 壮平	2				\circ						~5 ~5		N-AEE- 531	演習 【建築意匠/建築構造】
利 目				建築構造デザイン演習	成田和彦	2		0								~2 ~2		N-BSM- 531	演習 【建築意匠/建築構造】
				建築材料演習	舟 川 勲	2	()							1Q 水 2Q 木	<4∼5 <4∼5		N-BSM- 631	演習 【建築意匠/建築構造】
				サステイナビリティ学インターンシップ	インターンシップ 担当教員	2									1	_		N-INT- 621-SEP	インターンシップ科目 (どちらか片方のみ履修
				都市システム工学専攻学外実習	インターンシップ 担当教員	2									_	_		N-INT-621	登録可)
				建築実務実習	稲用 隆一・一ノ瀬 彩	2									-			N-INT-621	集中講義 後学期集中講義 【建築実務】
社	±			問題発見解決実習 I	各指導教員	2										=		N-SMI-521	社会人マスタープログラ ムのみ履修可
<i>₹</i>	/			問題発見解決実習Ⅱ	各指導教員	2									_	_		N-SMI-521	社会人マスタープログラ ムのみ履修可
2	Z.			問題発見解決実習Ⅲ	各指導教員	2									_	_		N-SMI-521	社会人マスタープログラ ムのみ履修可
5				都市システム工学特別講義 I	各指導教員	2									_	_		N-SMI-521	社会人マスタープログラ ムのみ履修可
2	ブ ラ			都市システム工学特別講義Ⅱ	各指導教員	2									_	_		N-SMI-521	社会人マスタープログラムのみ履修可
1	7			最先端技術特論	各指導教員	2									_	_		N=SMI=521	社会人マスタープログラ ムのみ履修可

開講時期欄の数字は開講期間に修得できる単位数を示す。

*印は英語での授業を予定している科目を示す。

△印の共通科目は、備考欄の大学院共通科目表示の授業科目で充当することができる。

備考欄(サス)はサステイナビリティ学プログラムにおける都市システム工学専攻が指定する専門科目を示す。

社会人マスタープログラム学生は、備考【社会人】表示の科目について講義担当教員と相談の上、講義実施日時を設定する。 教育研究上必要と認められる場合は、メディアを利用した授業(遠隔講義等)を実施することもある。

サステイナビリティ学教育プログラムにおいては,プログラムコア科目の選択必修科目の要件を大学院共通科目「地球環境システム論 I・Ⅱ」「持続社会システム論 I・Ⅱ」及び「人間システム基礎論 I・Ⅲ」で充足することができる。 ただし、この場合、プログラムコア科目として履修した科目を大学院共通科目の修得要件に含めることはできない。

(7) 共通科目

「社会人マスタープログラム」を除き、全てのプログラムは下表より大学院共通科目2単位及び研究科共通科目3単位を含む5単位を修得しなければならない。ただし、これら計5単位の内訳は、「倫理科目」「英語科目」「社会理解科目」「情報系科目」「体験型科目」のカテゴリーから各1単位修得すること。

なお、下表の◎印は修了に必須の科目であることを示す。(この件について、情報工学専攻及び都市システム工学専攻は自専攻の課程表の説明書きを熟読すること。)

科目						開	講	時期]		曜	講	専修		科目 ナンバリ	
目区分	授業科目の名称	担当教員	位数	⊢		下次		Н-т	年》		日	時時	修免許	カテゴリ	ングコー	備考
π	アカデミックプレゼンテーション	# +\\	1	-)3Q	4Q	1Q2	Q30	Q40		0	市工	++->		(人, 三田=#)
-	(平成31,30年度入学者:学術英会話 I) アカデミックディスカッション	若松弘子(非)	1								水	2		英語	KM-ENG-533	(水戸開講)
-	(平成31,30年度入学者:学術英会話Ⅱ)	若松弘子(非)	1		0)					水	2		英語	KM-ENG-533	(水戸開講)
-	国際コミュニケーション基礎A 国際コミュニケーション基礎B	田嶋 美砂子 田嶋 美砂子	1	_	0	,			+		月月	2			KM-COM- 533 KM-COM- 533	
-	実践国際コミュニケーションA	田嶋美砂子	1	1							水	5		英語	KM-COM- 633	
	実践国際コミュニケーションB	田嶋 美砂子	1	_	\bigcirc)					水	5		英語	KM-COM- 633	
	地球環境システム論 I	横 木 裕 宗・ 北 和 之 岡 田 誠	1	\circ							月	1		社会理解	KM-INS- 511-SEP	VCS
大	地球環境システム論Ⅱ	岡 田 誠 山村 靖夫(非)	1			0					金	2		社会理解	KM-SED- 511- SEP	VCS
大学院	持続社会システム論 I	田村誠・	1	0							金	1		社会理解	KM-MUL- 511- SEP	VCS
共	持続社会システム論Ⅱ	内田晋・他	1			\bigcirc					月	1		仁云理胜	KM-SED- 511- SEP	VCS
通	学術情報リテラシー	羽渕裕真	1								<u> </u>			社会理解	KM-FOI-521 KM-MUL- 531-	夏季集中講義(水戸開講
科目	人間システム基礎論 I	伊藤哲司・他	1		0	0					水月	1		江云垤胜	SEP KM-INS- 531-SEP	VCS
	人間システム基礎論 II * 地域サスティナビリティ農学概論	上 地 勝 · 他 小松崎将一·他	1		\cup)					月 一	4		社会理解		後学期集中講義
	Science of Food~ * Function, Processing, Safety~	白岩雅和・他	1								_	_		社会理解		後学期集中講義
	(食品の科学〜機能、加工、安全) 研究と教育ー知の往還をめぐってー	<u> </u> - 片口直樹・他	2								水	5		社会理解	KM-EDS-631	(水戸開講)
F	バイオテクノロジーと社会	安西弘行・他	1									_			KM-INS-511	夏季集中講義 VCS
	知的所有権特論	柳 光雄(非)	1								_	_		122.271	KM-INS-511	後学期集中講義 VCS
	環境情報センシング特論	湊淳	1			\circ					水	2		情報	KM-HUI-531	VCS
-	科学と倫理	湯元昇(非)	2								_	_		倫理	KM-SHS-511	夏季集中講義 VCS
	原子科学と倫理 応用数学特論	関東康祐・他 岡 裕 和	1 2							+	火	2		倫理	KM-ETH- 511 N-APM-531	夏季集中講義 VCS
-	解析学特論	平澤剛	2		_							2.3		_	N-ANA-531	
	数理工学特論	阿 部 敏 一	2		\supset						火	3		_	N-MAT-511	
	応用解析特論	細川卓也	2	0							金	3•4		_	N-ANA-511	
=	原子力連携ネット共通講座 I	関 東 康 祐 · 立 花 章	2	(<u> </u>						金	*		倫理	N-NUE- 511-NEP	※ 16:45∼18:15 VCS
	原子力連携ネット共通講座Ⅱ	松 村 邦 仁・立 花 章	2)				金	*		倫理	N-NUC- 511-NEP	※ 16:45∼18:15 VCS
	量子ビーム応用解析	星川晃範	1								_	—			N-QBS-511	集中講義(東海開講)
 	国際コミュニケーション演習A	Gina Fidalgo	1			0					月	5		英語		
F	国際コミュニケーション演習B 国際コミュニケーション演習C	岩 重 理 香 大 畠 玲 子	1			\bigcirc	\bigcirc				水月	3				(水戸開講)
	国際コミュニケーション演習D	岩重理香	1								水	3		英語		(月八月四冊)
	科学技術日本語特論	村上雄太郎	2				_				金	5		英語	N-JP N-511	留学生のみ履修可
研	組織運営とリーダーシップ	鬼澤慎人	1)				月	5		社会理解	N-MAN- 511	(水戸開講)
究 科	社会における科学技術	高妻孝光	1								-			社会理解	N-SHS-511	集中講義(水戸開講)
共	科学史 科学技術特論	林 真 理 酒 井 政 則	1											社会理解 社会理解	N-SHS-511	(水戸開講) (水戸開講)
通	先端科学トピックス I	島影尚・他	1)					月	5		社会理解		VCS
科目	先端科学トピックスⅡ	島影尚・他	1		0)					月	5		社会理解		休講
	製品技術開発特論	多田達也	1	_	\bigcirc						火	5		社会理解		
-	計算機応用特論A	伊多波正徳	1	0							金	1		情報系	N-CSC-511	
ŀ	計算機応用特論B 組込みシステム開発特論	伊多波正徳小泉	1		0						金水	$\frac{1}{3 \cdot 4}$		情報系 情報系	N-CSC-511 N-EST- 611-ACI	3Q前半
-	組込みンペケム開発特論 組込みプログラミングとRTOS	小 泉 忍 小 泉 忍	1			0				H	水水	3.4	H		N-EST- 611-ACI	3Q削平 3Q後半
ŀ	LSI設計·開発技術特論	武田茂樹	2	0	\bigcirc	_					水	3-5		情報系	N-EST- 631-ACI	前期•隔週 集中講義
	ビジネスモデル設計論	大 野 克 己	1	0							水	3•4		情報系	N-MIT-531-ACI	1Q•隔週
	ユーザエクスペリエンス論	柴 田 傑	1	_	0)					木	3		情報系		
-	データ解析論	野口宏	1	_							木木	1	0	情報系	N-CSC-511	
ŀ	情報ネットワーク論 現代科学における倫理	小澤佑介 林真理	1	+		H				-	<u> </u>	1	\circ	情報系 倫理	N-CSN-511 N-ETH-511	集中講義(水戸開講)
F				\cap							水	4				果中講義(水戸囲講) 1Qか2Qのどちらか片方の
	研究者倫理	壁谷彰慶	1		0)					水	4		倫理		み履修可能
	◯ Off-Class Project	関係教員	1	+	1	-								体験型		1

開講時期欄の数字は開講期間に修得できる単位数を示す。 *印は英語での授業を予定している科目を示す。

Off-Class Project について

1. 概要

Off-Class Project では、ギャップタームや休業期間等を活用し、自らの研究室以外の他環境における研究などの経験を通じて知見を広めると共に課題を発見・解決する能力を養成することを目的としています。企業インターンシップ、海外留学、学外研究機関での実習等を行うことで、研究科共通の「Off-Class Project」(1単位)『体験型科目』の単位を修得できます。上記のような学外での体験によるものでの単位修得が基本となり推奨されますので、キャリア支援室や各専攻からのインターンシップ情報なども参考にして、体験場所を選んでください。また、理工学研究科内の他専攻の研究室における異種研究体験を経験することでも単位修得が可能ですが、学外体験での単位修得になるよう心がけてください。

①インターンシップ等で学外に行く場合 (※推奨)

- ・ 企業インターンシップ、海外留学、学外研究機関への派遣等を対象とし、期間は 5 日間以上、合計 40 時間以上であること(インターシップ先が複数の場合は通算。企業により 1 日の労働時間が 8 時間に満たない場合はみなし 8 時間とする)。
- ・ 企業インターンシップにおいては<u>就業体験</u>を伴うことが条件であり、半日のみで終わる場合 や就業体験を伴わない場合の 1day インターンシップは認められないので注意すること。

②他専攻の研究室での異種研究体験の場合

・ 原則として第3QのOff-Class Project の授業時間内で行われます。受け入れ先研究室の 指導に従ってください。

2. 履修登録方法

①インターンシップ等で学外に行く場合

主指導教員に、インターンシップ先及び期間等を相談した上で、1年次後期の履修登録期間中に、DreamCampusの集中講義登録画面から、「Off-Class Project」を履修登録すること。

②他専攻の研究室での異種研究体験の場合

各専攻で定められた期限までに、希望する研究室を決め、異種研究体験の申請を行う。(期限、申請先等は専攻長の指示に従うこと)その後、1年次後期の履修登録期間中に DreamCampus の集中講義登録画面から、「Off-Class Project」を履修登録すること。

※希望人数により調整を行いますので、希望する研究室に配属されない可能性があります。

3. 成績について

インターンシップ等又は異種研究体験終了後、各専攻が定めた期限までに報告書(次ページ以降参照)を提出してください。この報告書に基づいて、成績が付与されます。なお、「インターンシップ 実習証明書」については企業独自の様式がある場合はそれに代える事ができる。

4. その他

- ・ 4月にインターンシップガイダンスが行われます。掲示等をよく確認してください。
- ・ 自専攻の実習科目で『体験型科目』の修得とみなすことが可能な場合もあります。自専攻の頁を よく確認してください。

		令和	年	月	日	提出
茨城大学	学大学院理工学研究科 Off-Class Pro	ject 報告	書			
専攻	学生番号					
学生氏名	指導教員氏名					
インターンシップ先	受入専攻名、					
(会社名、部署など)	受入担当教員名					
※異種研究体験では記入不要	※異種研究体験の場合は記入					
インターンシップを行						
った日時・時間						
(40 時間以上必要)						
※期間、勤務時間、実習の総						
時間などをできる限り詳し						
く記入すること)						
	インターンシップ報告					

インターンシップ実習証明書

※ 学生記入欄(下記に記入のうえ、実習日初日に担当者に渡すこと)

なお、企業独自の様式がある場合においては、その様式に代える事ができる。

学科・コース/専攻 学生番号 学年

	7 11		.4		, = = ,		7 1	' '	H	131/5 4
* :	実習先様記	己入欄								
9	崔 習	テ	_	マ						
9	美 翟	3	内	容						
	(大学〜		絡事項	頁)						
勤	実	習	期	間	実習総日数	出	勘日数	欠勤日数	遅刻	・早退
判	令和	年	月	日						
怠	~	J	月	日	日		日		日	日

上記のとおり実習したことを証明する。

令和 年 日

企業等名 証明者職名・氏名 性別

氏 名

科目ナンバリングコード

ナンバリングコードは、体系的な教育課程の編成のため、教育課程における当該授業 の位置づけ等を示すもので、次の項目についてアルファベットや数字で表示します。 各コードについて、例のコードを用いて説明します。授業選択の参考としてください。

例:N-NUE-511-NEP

(1) 部局コード【1アルファベット1文字、例では「N」】

部局コードは、授業科目を実施する部局(大学院共通科目及び各研究科)を示す ものとし、そのコードは次のとおりとします。

- ・全学教育機構(大学院共通科目)・・・・・・・・KM
- ・人文学研究科 ・・・・・・・ ・・・・L
- 教育学研究科・・・・・・・・・・・・・P
- ・理工学研究科・・・・・・・・・・N
- ・農学研究科・・・・・・・・・・ A

(2) 学問分野コード【アルファベット3文字、例では「NUE」】

学問分野コードは、当該授業科目の学問分野を示すものとし、そのコードは別表 1のとおりとします。当該授業科目が複数の学問分野にまたがるときは、主たる学 問分野を示すコードを付すこととします。

(3) 難易度コード【数字3ケタ目、例では「5」】

難易度コードは、各学問分野における当該授業科目の難易度を示すものとし、そのコードは次のとおりとします。

- 修士の基礎・・・・・500番台
- ・修士の発展・・・・・600番台

(4)授業方法コード【数字2ケタ目、例では「1」】

授業方法コードは、当該授業科目の実施方法を示すものとし、そのコードは次のとおりとします。

- ・下記以外の講義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・10番台
- ・実験・実習・実技以外のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業 ・・・30番台

(5) 使用言語コード【数字1ケタ目、例では「1」】

使用言語コードは、当該授業の授業担当教員が授業を進める上で通常使用する言語を示すものとし、そのコードは次のとおりとします。

- ・日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・英語のみ・・・・・・・・・・・・・・
- ・日本語と英語の併用 ・・・・・・・・・・・・3
- ・英語以外の外国語のみ ・・・・・・・・・ 4
- ・その他(例えば、ドイツ語と日本語の併用など)・・5

(6) 教育プログラムコード【アルファベット3文字、例では「NEP」】

教育プログラムコードは、当該授業科目を構成科目とする教育プログラムを示す ものとし、そのコードは別表2のとおりとします。一つの授業科目が複数の教育プログラムの構成科目となるときは、複数の教育プログラムコードを併記することと します。

科目ナンバリング 別表1 ((2)関係)

	付百万マグラマフ 加致工 ((2)	
コード	学問分野	英訳名
AAG	代数幾何学	Algebra and geometry
AAS	水圏応用化学	Applied aquatic science
ABE	建築学	Architecture and building engineering
ABS	農学基礎科目	Agricultural Basic Subjects
AEE	建築環境・設備	Architectural environment / Equipment
AGC	農芸化学	Agricultural chemistry
AGE	農業工学	Agro-engineering
AHD	建築史・意匠	Architectural history / Design
ALG	代数学	Algebra
ALS	動物生命科学	Animal life science
ANA	解析学	Analysis
ANT	人類学	Anthropology
APC	複合化学	Applied chemistry
APM	応用数学	Applied Mathematics
APP	応用物理学	Applied physics
APS	畜産学	Animal Production Science
ARC	考古学	Archaeology
ARS	地域研究	Area studies
ART	芸術学	Art studies
ASE	社会経済農学	Agricultural science in society and economy
AST	天文学	Astronomy
BAA	解析学基礎	Basic analysis
BAB	基礎生物学	Basic biology
BAC	基礎化学	Basic chemistry
BAM	基礎医学	Basic medicine
BAN	看護学	Basic nursing
BIE	人間医工学	Biomedical engineering
BIO	生物学	Biology
BIS	生物科学	Biological Science
BMS	生体分子科学	Biomolecular science
BOA	境界農学	Boundary agriculture
BRS	脳科学	Brain sciences
BSM	建築構造・材料	Building structures / Materials
CAM	文化財科学・博物館学	Cultural assets study and museology
CBR	生物資源保全学	Conservation of biological resources
CCC	土木材料・施工・ 建設マネジメント	Civil engineering materials / Construction /Construction management
CEE	土木環境システム	Civil and environmental engineering
СНС	漢文学	Chinese Classic
CHD	保育学	Child Development
СНЕ	化学	Chemistry
CHI	中国語	Chinese
CHS	子ども学	Childhood science
CIE	土木工学	Civil engineering
CLM	臨床医学	Clinical medicine

CMS	計算材料学	Computational Materials Science
CNE	通信・ネットワーク工学	Communication/Network engineering
COA	コンピュータ応用	Computer Application
СОЕ	制御工学/ 制御・システム工学	Control engineering
COM	コミュニケーション学	Communication
COP	調理学実習	Cooking Practicum
COS	認知科学	Cognitive science
CPS	計算機システム	Computer system
CRC	異文化コミュニケーション	Cross-cultural communication
CSC	計算科学	Computational science
CSN	コンピュータシステムと ネットワーク	Computer Systems and Networks
СТЕ	土木計画学・交通工学	Civil engineering project / Traffic engineering
CTS	被服学	Clothing and Textile Science
CUA	文化人類学	Cultural anthropology
CUL	栽培学	Cultivation
CUS	文化研究	Cultural studies
DEE	設計工学	Design engineering
DES	デザイン学	Design science
EAE	環境解析学	Environmental analyses and evaluation
EAS	地学	Earth science
ECC	電気回路	Electric Circuit
ECO	経済学	Economics
EDS	教育科学	Educational science
EDT	教育工学	Educational technology
EDU	教育学	Education
ELC	電子回路	Electronic Circuit
ELD	電子デバイス・電子機器	Electron device
ELE	電気エネルギー	Electric Energy
ELM	電子・電気材料工学	Electric materials
EMA	電磁気学	Electromagnetic
ENC	環境保全学	Environmental conservation
ENE	エネルギー工学	Energy engineering
ENG	英語	English
EPS	地球惑星科学	Earth and planetary science
EST	組込みシステム技術	Embedded System Technology
ETH	倫理学	Ethics
EXP	実験 (特別実験等)	Experiment
FFP	森林圏科学	Forest and forest products science
FLE	流体工学	Fluid engineering
FOI	情報学フロンティア	Frontiers of informatics
FOS	食物学	Food Science
FQS	量子基礎科学	Fundamental Quantum Science
FRE	フランス語	French
FRM	生活経営学	Family Resource Management
GEE	地盤工学	Geotechnical engineering
GEL	地質学	Geology

GEM	幾何学	Geometry
GEN	ジェンダー	Gender
GEO	地理学	Geography
GER	ドイツ語	German
GHS	グローバル化と人間社会	Globalization and Human society
GNS	ゲノム科学	Genome science
GRE	ギリシア語	Greek
GRT	卒業論文・卒業研究	Graduation thesis
HEE	家庭科教育学	Home Economics Education
HII	ヒューマンインタフェース・ インタラクション	Human interface and interaction
HIS	歴史学	History
HLS	生活科学	Human life science
HOS	住居学	Housing Science
HSS	健康・スポーツ科学	Health/Sports science
HUG	人文地理学	Human geography
HUI	人間情報学	Human informatics
HUM	ヒューマニティーズ	Humanities
HYE	水工学	Hydraulic engineering
IBS	茨城学	Ibaraki Studies
ICT	情報とコンピュータ	Information and Computer Technology
IFS	情報セキュリティ	Information security
IIP	情報処理概論	Introduction to Information Processing
INE	生産工学	Industrial engineering
INF	情報学	Informatics
INI	知能情報学	Intelligence Informatics
INL	情報リテラシー	Information Literacy
INM	知能機械学	Intelligent mechanics
INS	学際科目・総合科目	Interdisciplinary Studies
INT	インターンシップ	Internship
ISS	社会科学入門	Introduction to Social Science
JPN	日本語	Japanese
KOR	朝鮮語	Korean
LAN	その他の語学	Language
LAS	実験動物学	Laboratory animal science
LAW	法学	law
LID	ライフデザイン	Life Design
LIN	言語学	Linguistics
LIT	文学	Literature
MAC	材料化学	Materials chemistry
MAE	材料工学	Material engineering
MAI	数理情報学	Mathematical informatics
MAN	経営学	Management
MAS	生産技術工学	Manufacturing Systems
MAT	数学	Mathematics
MCI	情報数学	Mathematics for Computer and Information Sciences
MED	機械力学	Mechanical dynamics

MEE	計測工学	Measurement engineering
MEI	電子機能材料学	Materials Science for Electronic and Information Devices
MEW	金属加工学	Metal Working
MFE	機械機能要素	Machine functional elements
MFP	数理物理・物性基礎	Mathematical physics/Fundamental condensed matter physics
MIT	経営情報技術	Management of Information Technology
MMP	材料組織・プロセス学	Materials Microstructure & Processing Engineering
MOM	材料力学	Mechanics of Materials
MUD	マルチメディア・ データベース	Multimedia database
MUL	総合・複合分野	Multi
NEH	自然・環境と人間	Nature, the Environment and the human Race
NEM	中性子材料科学	Neutron Materials Science
NEU	神経科学	Neuroscience
NMS	ナノ・マイクロ科学	Nano/Micro science
NUE	原子力工学	Nuclear engineering
OED	光・電子デバイス	Optical and Electric device
ONC	腫瘍学	Oncology
OPE	光工学	Optical engineering
PAA	パフォーマンス&アート	Performance and art
PCE	プロセス・化学工学	Process/Chemical engineering
PCI	情報科学基礎	Principles of Computer and Information Sciences
PEA	生産環境農学	Plant production and environmental agriculture
PHA	身体活動	Physical Activities
PHI	哲学	Philosophy
PHY	物理学	Physics
PIP	知覚情報処理	Perceptual information processing
PLS	プラズマ科学	Plasma science
POE	パワーエレクトロニクス	Power Electronics
POI	情報学基礎/計算基盤	Principles of Informatics
POL	政治学	Politics
PRA	実習(特別実習等)	Practice
PRE	プレゼンテーション	Presentation
PSY	心理学	Psychology
PUH	保健学演習	Public health
QBS	量子ビーム科学	Quantum beam science
RES	研究 (特別研究等)	Research
RIS	リスク科学	Risk Science
SCH	学校保健学	School health
SED	環境創成学	Sustainable and environmental system development
SEM	構造工学・地震工学・ 維持管理工学	Structural engineering / Earthquake engineering / Maintenance management engineering

SFC	ソフトコンピューティング	Soft computing
SFH	健康の科学	Science for Health
SHS	科学社会学・科学技術史	Sociology/History of science and technology
SMI	演習・ゼミナール(特別演習、卒業論文関連ゼミナール、卒業研究ゼミナール、基礎演習、主題別ゼミナール等)	Seminars
SNT	養護実践学	School nurse teacher practice
SOC	社会学	Sociology
SOM	材料強度物性学	Strength of Materials
SPA	スペイン語	Spanish
SSS	社会・安全システム科学	Social/Safety system science
SST	ソフトウェア学	Software Science and Technology
STB	構造生物学	Structural Biology
STS	統計科学	Statistical science
TAP	都市計画・建築計画	Town planning / Architectural planning
TEE	技術英語	Technical English
THE	熱工学	Thermal engineering
TOS	観光学	Tourism Studies
WOW	木材加工学	Wood Working

科目ナンバリング 別表2((6)関係)

ACI 先進創生情報学教育研究プログラム	
AIM AIMSプログラム	
ASP 総合原子科学プログラム	
BSP 生物科学プログラム	
CHP 化学プログラム	
COC 地域志向教育プログラム	
EPP 地球惑星科学プログラム	
ESP 地球科学技術者養成プログラム	
FRP 食のリスク管理教育プログラム	
GEP グローバル英語プログラム	
ILP 国際教養プログラム	
INF 情報数理プログラム	
ISB 学際理学 B プログラム	
ISC 学際理学 C プログラム	
ISE 学際理学 E プログラム	
ISP 学際理学 P プログラム	
JEP 日本語教育プログラム	
LCP 地域課題の総合的探求プログラム	
MAT 数学プログラム	
NEP 原子力工学教育プログラム	
NIP 根力育成プログラム	
PHP 物理学プログラム	
RSA 地域サステイナビリティ実践農学教育プロク	ブラム
RSC 地域サステイナビリティ学コース	
RSP 地域サステイナビリティ学プログラム	
SEP サステイナビリティ学教育プログラム	

教育職員免許状の取得について

本研究科(量子線科学専攻及び理学専攻を除く)において修了要件を満たし、かつ、各専攻及び共通科目で認定を受けた、「教科に関する科目」を24単位修得することで、高等学校専修免許状(工業)を得ることができます。

ただし、既に一種免許状(工業)を授与されている者(授与資格を得ている者を含む)に限ります。

1.「教科に関する科目」について

各専攻の課程表の「専修免許」欄に「〇」がついている科目が「教科に関する科目」として認定を受けている科目です。これらの科目以外を修得しても、資格要件の24単位を満たすことはできませんので注意してください。

2.「教育職員免許状一括申請」について

免許状取得希望者の為に、茨城県教育委員会に、免許状授与申請の手続きを一括して行います。 卒業時に免許状の授与を希望する者は、修了予定年度内の11月頃に学務グループにおいて一括申 請の手続きを行ってください。

手続き書類の配布等は10月中旬に掲示によりお知らせいたします。

また,一括申請の手続きが出来なかった場合は,修了した後に現住所の各都道府県教育委員会に 個人申請を行うことができます。詳細は各都道府県教育委員会へお問い合わせください。

横断型教育プログラム履修案内

先進創生情報学教育研究プログラムの履修について

趣旨

本プログラムは、情報学の新しいITスペシャリストの養成を図るとともに、先進的な情報学に関する人材育成と先進的、融合的な研究を推進することを目的として、茨城大学と宇都宮大学が築き上げた教育内容を効果的に活用して実施するものである。

履修者は以下の2つのコースのいずれかを選択する。

(1) 人間創生情報学コース

人間とITとの関係を対象とし、人間生活に安全性・経済性・快適性をもたらすサービスや技術の開拓を目指す。

(2)社会創生情報学コース

社会とITとの関係を対象とし、社会・環境と情報の関わり方に関するモデルの構築とそのビジネス化に関するサービスや技術の開拓を目指す。

授業科目

分野		授業科目	単位	開講時期								
							2年次				備考	
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
先進創生情報学教	A群	データマイニング特論	1			\circ						選択必修
		知能情報学特論	1	\circ								選択必修
		知識情報処理演習	1			\circ						選択必修
		企業戦略特講	1		\bigcirc							選択必修(経営系)
		マーケティング戦略特論	1		\bigcirc							選択必修(経営系)
		ソフトウェアビジネスモデル論	1	\bigcirc								選択必修(経営系)
		ビジネスモデル事業戦略論	1		\bigcirc							選択必修(経営系)
	B群	組込みソフトウェア工学										2020年度休講
		組込みシステム開発論	1	\bigcirc								選択必修
		LSI設計·開発技術演習	2									選択必修
		リアルタイム組込みシステム開発論	1			\bigcirc						選択必修
		リアルタイムプログラミングとRTOS	1			\circ						選択必修
育		生体情報計測演習	1		\bigcirc							選択必修
研究		バーチャルデザイン演習	1			\bigcirc						選択必修
プ	C群	インフォメーションモデル論	1	\bigcirc								選択必修
ログ		Web工学特論	1	\bigcirc								選択必修
グラム		情報セキュリティ特論	1			\circ						選択必修
		情報技術経営論	1		\bigcirc							選択必修
		エンタープライズソフトウェア工学	1		\bigcirc							選択必修
		エンタープライズソフトウェア工学演習	1		\circ							選択必修
	D群	ICTソリューション実践 I	1		\circ							必修
		ICTソリューション実践Ⅱ	1			0						必修
		情報工学特別研究 I ~IV	2				$\overline{}$				$\overline{)}$	必修
		情報産業インターンシップ	2									必修

[※] 開講時期欄の数字は開講期間で修得できる単位数を示す

プログラムの修了要件と履修上の注意

- 1 先進創生情報学教育研究プログラムの各コース履修者は、入学年度始めのガイダンスで希望者を募り、選考 により決定するので注意すること。
- 2 本プログラムを修了するには、必修科目12単位及び選択必修科目8単位を含む合計30単位修得しなければならない。
- 3 A群は選択必修科目で、4単位(経営系科目2単位を含む)以上を修得しなければならない。
 - <人間創生情報学コース履修者>
 - 上記A群に加えてB群から4単位以上を修得しなければならない。
 - <社会創生情報学コース履修者>
 - 上記A群に加えてC群から4単位以上を修得しなければならない。
- 4 D群の「ICTソリューション実践 I・Ⅱ」「情報産業インターンシップ」及び「特別研究 I ~IV」は必修科目です。 情報産業インターンシップは、8週程度の長期インターンシップを原則1年次の第4Qに実施する。学生教育研究災害保険に加入し、担当教員からの指示に従って履修しなければならない。
- 5 修了要件を満たした学生には、理工学研究科長名で「先進創生情報学教育研究プログラム修了証」を与える。

サステイナビリティ学教育プログラムの履修について

(1) 趣旨

環境問題やエネルギー・資源の不足、水・食料の逼迫、人口問題などを解決して、社会の持続可能性(サステイナビリティ)をいかに確保するかは、現代の大きな課題になっています。本プログラムは、基盤科目や海外及び国内での現場演習を通して、これらの問題を把握する俯瞰的視点と専門分野の知識をつなぐ分野横断的な勉学の機会を提供します。

(2) 授業科目

区分	分	授業科目	単位	備考				
(必修)		サステイナビリティ学最前線[必修]	2	SSC 参加大学共同開講科目 都市システム工学専攻開講				
		地球環境システム論 I	1	大学院共通科目				
	基盤科目 (選択)	地球環境システム論Ⅱ	1	大学院共通科目				
]]		持続社会システム論 I	1	大学院共通科目				
 ア 		持続社会システム論Ⅱ	1	大学院共通科目				
目目	択	人間システム基礎論 I	1	大学院共通科目				
6 当		人間システム基礎論Ⅱ	1	大学院共通科目				
(6単位以上)		国際実践教育演習	2	都市システム工学専攻開講				
上	演	国内実践教育演習	2	都市システム工学専攻開講				
	演習科	ファシリテーション能力開発演習 I	1	都市システム工学専攻開講				
	目	ファシリテーション能力開発演習Ⅱ	1	都市システム工学専攻開講				
		サステイナビリティ学インターンシップ	2	都市システム工学専攻開講				
専門科目 (2単位以上)		理工学研究科(工学系) 指定科目		所属専攻の指定する科目 ※専攻課程表(サス)表記				

※ 1~2 年次欄は開講期間と修得可能な単位数を示す

(3) プログラムの修了要件

- ①基盤科目(必修)を2単位修得
- ②基盤科目(選択)及び演習科目をあわせて4単位修得
- ②理工学研究科(工学系)が指定する専門科目の中から2単位以上修得
- ③合計10単位以上を修得。

※必修科目「サステイナビリティ学最前線」はサステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) 参加大学が協力して開講する科目です。

(4) 履修上の注意事項

- 1) 基盤科目及び演習科目は、地球変動適応科学研究機関の協力のもとで開講する科目です。これらの科目は、大学院共通科目又は本プログラムでのバンドで開講します。
- 2) 上記表のうち、備考欄に「大学院共通科目」とあるものは、本プログラムの科目かつ大学院共通科目として申告できます。
- 3) 理工学研究科(工学系)が指定する科目については、所属専門分野の専攻科目とし、本プログラムの科目かつカリキュラム修了の要件に該当する科目として申告できます。
- 4) 国際実践教育演習及び国内実践教育演習の履修にあたっては、学生教育研究災害保険に加入し、担当教員からの指示に従うことが必要です。
- 5) 所定の修了要件を満たした学生には、理工学研究科長名で「理工学研究科サステイナビリティ学教育プログラム修了認定証」及び「SSC 共同教育プログラム修了認定証」が与えられます。

【参考】

(1) サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) とは

サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) は、サステイナビリティ・サイエンスの視点に立脚した研究教育を推進するために 2010 年に設立された一般社団法人です。新しい人材育成を先導するとともに、広く市民社会にネットワークを広げ、持続可能な社会形成のための啓発普及活動を行うとともに、政府・自治体・企業・NPO 等と協働で、サステイナビリティの実現に向けた実践活動を展開することを目的としています。東京大学、大阪大学など SSC の参加大学で「サステイナビリティ学最前線」を共同開講しています。

(2) 地球変動適応科学研究機関 (ICAS) とは

地球変動適応科学研究機関(ICAS:Institute for Global Change Adaptation Science)は、サステイナビリティ学連携研究機構IR3S構成大学の1つとして 2006年に茨城大学に設置された研究機関です。高い人口増加や経済成長が見込まれる一方で、気候変動や自然災害の影響が高まることが懸念されるアジア・太平洋地域を 対象に、気候変動への適応を中心にサステイナビリティ学の研究、教育、アウトリーチ活動を進めています。ICAS には茨城大学の全学部から教員が参加し、サステイナビリティ学教育プログラムでも中心的な役割を担っています。

(3) 茨城大学大学院サステイナビリティ学教育プログラムホームページ

本プログラムの趣旨・概要などの他、関係授業科目の開講スケジュール・日程、授業に関する最新情報が入手できます。

http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/

地域志向教育について

茨城大学は平成27年度から学士課程と大学院(博士前期課程)において、地域を多角的に捉えながら地域課題等と向き合う、地域志向教育を行っています。

大学院についてはプログラム化せずに、地域にかかわる科目(地域志向教育科目)を履修 したい大学院生が任意に履修することになります。

これに該当する科目には、シラバスに「地域志向教育科目」という表記があります。また これに関連する科目には「地域活性化志向」という記載があります。これらの授業科目は修 了要件上必修とするものではありませんが、 地域にかかわる内容の学修に興味のある方は 履修してください。

成績評価に関する疑義について

履修した授業科目の成績評価について疑義がある場合の手続きについてお知らせします。

なお、書面による問合せとなっていますが、担当教員に対し、成績評価に関連 した履修上の助言等を受けることを妨げるものではありません。(例:どのよう にすれば評価が上がったのか など)

成績評価に疑義のある場合

- 授業科目を開講した学部の学務グループで「成績評価に関する確認書」を受け取り、必要事項を記入のうえ、開講学部の学務係に提出(当該授業科目開講学期の翌学期開始後20日以内)
- ただし、以下の授業科目については学務部共通教育グループに問合せる
 - ①基盤教育科目・全学共通プログラム科目
 - ②工学部(昼間コース),農学部1年次生が水戸キャンパスで履修した専門科目
 - ②大学院共通科目
 - ③教育学部以外の学生が履修する教職に関する科目



確認の問合せに対する担当教員からの回答



担当教員の回答等が、以下に該当する場合

- (1) 成績評価の誤記入等が疑われる場合
- (2) シラバスに記載された到達目標、成績評価基準及び成績の評価方法に照らして、評価に疑義がある場合
- (3) 問合せ後、10日を経過しても授業担当教員からの回答が得られない場合



異議申立て

上記「成績評価に疑義のある場合」の窓口で書類を受け取り、必要事項を記入の うえ、開講学部の学務係に提出(担当教員からの回答後10日以内)

令和2年 工学部学務グループ

○茨城大学学位規則

(平成5年3月25日制定)

改正

平成 25 年 7 月 19 日規則第 43 号 平成 26 年 10 月 16 日規則第 61 号 平成 27 年 3 月 26 日規則第 31 号 平成 28 年 2 月 15 日規則第 5 号 平成 30 年 1 月 12 日規則第 1 号 令和元年 9 月 30 日規則第 11 号

(趣旨)

第1条 学位規則(昭和28年文部省令第9号。以下「省令」という。)第13条の規定に基づき、茨城大学(以下「本学」という。)において授与する学位については、本学学則及び大学院学則に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

(学位)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、博士及び教職修士(専門職)とする。 (学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学学則の規定により、本学を卒業した者に学長が授与する。 (修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院学則の規定により、本学大学院の修士課程又は博士課程の前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)を修了した者に学長が授与する。 (博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、本学大学院学則の規定により、本学大学院の博士課程の後期3 年の課程(以下「博士後期課程」という。)を修了した者に学長が授与する。

2 前項に規定するもののほか、博士の学位は、本学に学位論文を提出して、その審査に合格し、かつ、大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる。

(教職修士(専門職)の学位授与の要件)

第5条の2 教職修士(専門職)の学位は、本学大学院学則の規定により、本学大学院の 専門職学位課程を修了した者に学長が授与する。

(在学者の学位論文の提出)

第6条 第4条の規定により修士の学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に学位論文(本学大学院学則第21条第1項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。)を添えて、研究科長に提出しなければならない。

2 第5条第1項の規定により博士の学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に

学位論文、論文要旨、論文目録及び履歴書を添えて、研究科長に提出しなければならない。

(博士課程を経ない者の学位論文の提出)

第7条 第5条第2項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、論文要旨、論文目録及び履歴書並びに国立大学法人茨城大学における学生納付金その他の費用に関する規則(平成16年規則第7号)に定める額の学位論文審査手数料を添えて当該研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

(退学者の学位論文の提出)

第8条 本学大学院の博士後期課程を退学した者が、学位の授与を申請するときは、前条の規定を準用する。ただし、当該課程に標準修業年限以上在学し、本学大学院学則の規定により教育を受けた上退学した者(以下この条において「博士後期課程単位取得退学者」という。)が、退学してからその研究科所定の年限内に学位の授与を申請するときは、第6条第2項の規定を準用する。

2 前項ただし書の場合において、博士後期課程単位取得退学者が退学したときから 1 年を超えたときは、学位論文審査手数料を納付するものとする。

(学位論文及び手数料の不返付)

第9条 受理した学位論文及び納付された学位論文審査手数料は、返付しない。 (学位論文)

第 10 条 学位論文は、1 編に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 研究科長は、審査のため必要があるときは、学位論文の訳文その他必要な資料等の提出を求めることができる。

(審査の付託)

第11条 研究科長は、第6条第1項の規定による修士又は第6条第2項及び第8条第1項ただし書の規定による博士の学位論文を受理したときは、当該研究科委員会にその審査を付託しなければならない。

2 学長は、第7条及び第8条第1項本文の規定による博士の学位の授与申請を受理したときは、当該研究科長を経て、研究科委員会にその審査を付託しなければならない。 (審査会)

第 12 条 研究科委員会は、前条の規定により学位論文の審査を付託されたときは、審査会を設置し、その審査を審査会に委嘱しなければならない。

2 審査会は、所属専攻の研究指導教員 1 名及び学位論文の内容に関係のある当該研究 科担当の教員 2 名以上をもって組織するものとする。ただし、必要があるときは、本学 の他の研究科等又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査会に加えることがで きる。

(審査の期間)

第13条 修士論文は、提出者の在学期間中に審査を終了するものとする。

2 博士論文は、受理した日から1年以内に審査を終了するものとする。ただし、特別の理由があるときは、研究科委員会の審議を経てその期間を延長することができる。

(最終試験及び試問)

第 14 条 提出された学位論文については、審査及び最終試験を行うものとし、最終試験は、学位論文を中心として、これに関連する事項について行うものとする。

2 第7条及び第8条本文に該当する者については、前項のほかに、本学大学院の博士後期課程修了者と同等以上の学力を有することを確認するために試問を行う。

(研究科委員会への報告)

第 15 条 審査会は、学位論文の審査、最終試験及び試問の結果を研究科委員会に文書 で報告するものとする。

(修了の認定の審議)

第 16 条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて、修了の認定を審議する。

(学長への報告)

第17条 学部長は、本学学則第41条に規定する卒業の認定について、学部教授会において審議したときは、これを学長に報告しなければならない。

2 研究科長は、本学大学院学則第21条第3項、第22条第3項及び第22条の2第2項に規定する修了の認定について、研究科委員会において審議をしたときは、これを学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第18条 学長は、前条に規定する報告に基づき、学位を授与すべきものと決定した者には学位記を交付し、学位を授与できないと決定した者には、その旨を通知する。

2 前項に基づき学位記を交付される者のうち修士ダブルディグリープログラムによる者については、和文に代えて英文の学位記を交付することができる。

(博士の学位授与の報告)

第19条 博士の学位を授与したときは、学位簿に登録し、省令第12条に定める様式により、文部科学大臣に報告しなければならない。

(学位論文要旨等の公表)

第20条 本学が博士の学位を授与したときは、授与した日から3月以内に、その学位 論文の要旨及び学位論文の審査結果の要旨をインターネットの利用により公表するも のとする。

(学位論文の公表)

第21条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項本文の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を得て、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、研究科長は、当該学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前 2 項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

(専攻分野の名称)

第22条 学士の学位を授与するに当たっては、本学学則第42条第2項に定める専攻分野の名称を付記するものとする。

2 修士又は博士の学位を授与するに当たっては、本学大学院学則第23条第2項に定める専攻分野の名称を付記するものとする。

(学位名称の使用)

第23条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、学位に茨城大学を付記するものとする。

(学位授与の取消)

第24条 修士、博士又は教職修士(専門職)の学位を授与された者が、その名誉を汚す 行為があったとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、 学長は、研究科委員会の審議を経て、学位の授与を取消し、学位記を返付させ、かつ、 その旨を公示するものとする。

2 研究科委員会において前項の審議をする場合は、第16条の規定を準用する。 (学位記の再交付)

第 25 条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し、学長に願い出なければならない。

(学位記及び提出書類の様式)

第 26 条 学位記及び学位申請関係書類の様式は、別記様式第 1 から別記様式第 6 のとおりとする。

(附則等省略)

				修	第		뮹	
	学		位		===			
		氏	名	年	月		ŧ	
	本学大学院○○研究科○○専攻の△△課程を修了したので修士(○○)の学位を授与する							
年	月	∃ ŧ		大	学	Ер		

(日本工業規格 A4縦)

備考 △印には、博士前期課程を修了した者は「博士前期」と、修士課程を修了した者は「修士」と記入するものとする。

(学士の学位記、博士の学位記の様式については省略)

修士学位論文の審査及び最終試験実施要項

1. 学位論文審査

(1) 論文審查申請資格

博士前期課程に1年以上在学し、修了見込みの者、又は早期修了者として認定された者であること。 (ただし、プロフェッショナルサイエンスマスタープログラムを履修する者を除く。)

(2) 論文の提出期日

3月期修了予定者については2月5日頃まで、9月期修了予定者については8月5日頃までとする。

(3) 論文の提出方法

指導教員の承認を得たうえで、論文1編1部、論文要旨(和文及び英文)1部に、論文審査願を添えて提出する。提出先は別途掲示する。

(4) 論文審査委員

所属専攻の指導教員1名及び学位論文の内容に関係のあり、所属専攻長が認めた本研究科担当教員2 名以上をもって審査会を組織するものとする。ただし、必要があるときは、本学の他研究科等、又は他の大学院もしくは研究所等の教員等を審査会の構成員とすることができる。

(5) 論文の発表

論文提出者は、その研究内容について口頭発表しなければならない。発表の日時、場所等はあらかじめ公示するものとする。

(6) 論文の審査

学位論文の審査は、修士論文が原則として非公開とされていることを考慮し、審査会における学位 (修士)申請者の口頭発表及び学位論文の内容に関係する質疑応答を中心に行う。

2. 最終試験

最終試験は、学位論文の内容に関する事項についての口述試験により行う。

3. 論文の審査及び最終試験の期日

論文の審査及び最終試験は、3月期修了予定者については2月末日、9月期修了予定者については8月末日までに終了し、審査委員はその結果を文書にて理工学研究科博士前期課程委員会に報告しなければならない。

4. 論文の保管

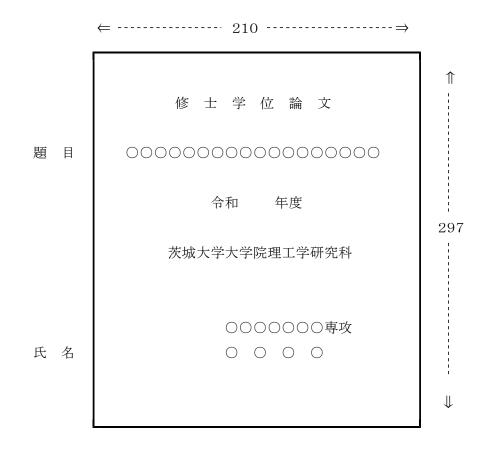
審査に合格した論文の正本の電磁的記録を理工学研究科に保管する。ただし、非公開とする。

5. その他

この要項によりがたいときは、その都度、理工学研究科博士前期課程委員会に付議決定する。また、実施の詳細は理工学研究科博士前期課程学務委員会において決定する。

学位論文作成要領

- 1. 規格A4版(210×297mm)とし、上・下・左・右に余白(各20mm)を設ける。
- 2. 市販のA4版ファイルを使用し、表紙には下記事項を記載すること。



3. 本 文

- (1) 使用言語は、日本語又は英語とし、横書きとする。
- (2) ページ数及び目次を記入し、論文要旨(和文及び英文)を各1部論文に綴りこむ。
- (3) 製本は、左綴じとすること。

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程の在学期間短縮修了(早期修了)に関する実施要項

令和2年4月現在

大学院学則第21条第1項ただし書きに規定する「ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。」に基づき、在学期間を短縮して修了させる場合の取扱いは、次のとおりとする。(注1)

なお、在学期間を短縮して修了する者は、本研究科の博士後期課程に進学する者であることとする。

1. 「優れた業績を上げた者」の要件

次の要件を満たし、かつ、理工学研究科博士前期課程委員会で早期修了可能と認定された者

- (1) 当該専攻が定める修了要件を満たしている、又は満たす見込みであること
- (2) 学術研究活動において、下記のいずれかに該当する、特に顕著な業績があること
 - ①審査機関のある学術論文誌に、本人が筆頭著者である論文が掲載または掲載決定されていること
 - ②査読のある国際会議において、本人が筆頭著者である発表済みの国際会議論文があること(注2)
- 2. 早期修了申請資格の審査願

早期修了を希望する者(以下、「早期修了申請者」)は、下記の書類を提出し、申請資格の認定を受けなければならない。

- (1) 早期修了申請資格審査願
- (2) 研究概要
- (3) (主) 指導教員の推薦書
- (4) 研究業績目録
- (5) 成績証明書
- (6) 上記1(2) の業績を証明する書類
- 3. 早期修了申請資格の認定
- (1) 早期修了申請者は、早期修了申請資格審査願とともに上記2の(2)~(6)の書類を、所属専攻の教員の所属学部の学務係へ提出する。(期限は別に定める。)
- (2) 所属専攻長は、専攻会議等において上記1. の要件を満たすか否かを慎重に審査する。要件基準の詳細は当該専攻が定める。
- (3) 所属専攻長は審査結果を理工学研究科博士前期課程委員会に提案し、理工学研究科博士前期課程委員会が 早期修了申請資格認定の可否を決定する。
- (4) 認定可否の結果は、理工学研究科長名で、早期修了申請者へ文書で通知する。
- 4. 早期修了の認定

早期修了申請資格が認定された者に対しては学位論文審査を許可し、学位論文審査及び最終試験、ならびにその後の修了に係る認定手続きは、一般の学生と同様に取り扱うものとする。

- (注1) 理学専攻のPSMプログラム修了見込み者の在学期間の短縮は行わない。
- (注2)国際会議論文とは、学会が主催する国際会議において、本論文がプログラム委員会によるピアレビューにより審査され採録されたものであることとする

茨城大学大学院理工学研究科規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人茨城大学組織規則(平成16年規則第1号)第20条第4項並びに茨城大学大学院学則(昭和43年5月1日制定。以下「大学院学則」という。)第4条第2項及び第13条第3項の規定に基づき、茨城大学大学院理工学研究科(以下「研究科」という。)に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 研究科は、科学・技術における基礎及び応用を教授研究し、学術の深奥をきわめる とともに、高度な研究応用能力と豊かな学識を有する研究者並びに高度専門職業人を育成 し、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

(構成)

- 第3条 研究科博士前期課程量子線科学専攻及び理学専攻に、別表第1のとおりコースを 置く。
- 2 研究科博士前期課程機械システム工学専攻、電気システム工学専攻、情報工学専攻、都 市システム工学専攻に、別表第2のとおりプログラムを置く。
- 3 研究科博士後期課程の専攻に、別表第3のとおりコースを置く。
- 第4条 研究科に、研究科長及び副研究科長を置く。
- 2 研究科長及び副研究科長の選考方法については、別に定める。

(研究科委員会)

第5条 研究科に、茨城大学大学院理工学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。

(専攻長等)

- 第6条 博士前期課程及び博士後期課程の専攻に専攻長及び副専攻長を置く。
- 2 専攻長については、茨城大学の専攻長に関する規程(平成 27 年規程第 78 号)の定めると ころによる。
- 3 副専攻長は、当該専攻担当の教授のうちから、専攻からの推薦を受けて、研究科長が任命する。
- 4 副専攻長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(指導教員)

- 第7条 学生の授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を行うため、指導教員を置く。
- 2 博士前期課程の指導教員は、学生1名について主指導教員1名及び副指導教員1名以上 とする。この場合において、主指導教員については、博士前期課程における研究指導を担当

する資格を有する教授、准教授、講師及び助教とし、副指導教員については博士前期課程に おける研究指導又は授業を担当する資格を有する教授、准教授、講師及び助教とする。

3 博士後期課程の指導教員は、学生1名について主指導教員1名及び副指導教員2名以上とする。この場合において、主指導教員については、博士後期課程における研究指導を担当する資格を有する教授、准教授、講師及び助教のうちから、副指導教員については博士後期課程における研究指導又は授業を担当する資格を有する教授、准教授、講師及び助教のうちから、研究科委員会の審議を経て研究科長が指名する。

(入学者の選考)

第8条 入学者の選考方法は、別に定める。

(進学者の選考)

第9条 博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者の選考方法は、別に 定める。

(授業科目及び単位数)

第 10 条 研究科共通科目及び専攻科目の授業科目及び単位数は、別表第 4(博士前期課程) 及び別表第 5(博士後期課程)のとおりとする。

(履修方法)

- **第11条** 履修方法は、別表第4(博士前期課程)及び別表第5(博士後期課程)の備考欄の定めるところによるものとする。
- 2 学生は、前項の履修方法に基づき、指導教員の指導のもとに、博士前期課程にあっては 30 単位、博士後期課程にあっては 14 単位以上を修得しなければならない。
- 3 学生は、履修しようとする授業科目を毎学期の始めに指導教員の指導に基づいて選定し、 その授業科目を担当する教員の承認を得て、研究科長に届け出なければならない。

(教育方法の特例)

第11条の2 教育上特別の必要があると認める場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の研究科又は他の大学院の授業科目の履修等)

- 第12条 学生は、指導教員が必要と認めるときは、他の研究科の授業科目を当該研究科長の許可を得て、履修することができる。
- 2 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院の授業科目を当該大学院の許可を得て履修することができる。この場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院との間において必要な事項について、協議しなければならない。
- 3 前 2 項の規定により修得した単位は、博士前期課程にあっては、10 単位、博士後期課程にあっては、4 単位を限度として、課程修了の要件となる単位として認めることができる。 (他の大学院又は研究所等における研究指導)
- **第13条** 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、博士前期課程にあっては、当該研究指導を受ける期間は、

- 1年を超えないものとする。
- 2 前項の場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院又は研究所等との間において 必要な事項について、協議しなければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

- 第14条 教育上有益と認めるときは、学生が本研究科に入学する前に本学又は他の大学院において修得した単位を、本研究科入学後の本研究科における授業科目の履修により修得したものと見なし、単位を与えることが出来る。
- 2 前項の規定により修得したものと見なすことの出来る単位は、転入学及び再入学の場合 を除き、本学において修得した単位以外のものについては、博士前期課程にあっては 10 単 位、博士後期課程にあっては 4 単位を超えないものとする。
- 3 前 2 項に規定するもののほか、入学前の既修得単位等の認定に関する手続き等は別に定める。

(長期履修学生)

- **第15条** 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間に わたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、茨 城大学大学院長期履修学生規程の定めるところにより、長期履修学生として許可すること がある。
- 2 前項に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。 (単位の認定)
- 第16条 単位修得の認定は、試験又は研究報告書等により担当教員が行う。
- 2 授業科目の試験又は研究報告書等の成績評価は、100点をもって満点とし、A+(90点以上)、A(80点以上 90点未満)、B(70点以上 80点未満)、C(60点以上 70点未満)及び D(60点未満)の評語で表し、A+、A、B 及び C を合格とする。

(試験)

- 第17条 試験は、筆記試験又は口述試験とし、学期末又は学年末に期日を定めて行う。ただし、特別の事情のある場合は、学期の途中において行うことができる。
- 2 再試験及び追試験については、研究科委員会の審議を経て行うものとする。

(最終試験)

第18条 最終試験は、第11条第1項に定める単位を修得し、かつ、学位論文(大学院学則 第21条第1項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。)を提出し た者について行う。

(学位論文の提出及び審査)

- **第19条** 学位論文は、指定された期日までに指導教員の承認を得て、研究科長に提出しなければならない。
- 2 学位論文の審査及び学位授与の可否については、学位規則の定めるところによる。
- 3 前2項に定めるもののほか、学位論文の提出、審査の方法等に関し、必要な事項につい

ては、研究科委員会が別に定める。

(修了の要件)

第20条 修了の要件については、大学院学則の定めるところによる。

(教育プログラム)

第21条 研究科に次の教育プログラム(以下「プログラム」という。)を置く。

サステイナビリティ学プログラム

原子力工学教育プログラム

先進創生情報学教育研究プログラム

- 2 プログラムにおける授業科目、単位数及び履修方法は、別に定める。
- 3 研究科長は、第 20 条に定める修了要件を満たし、プログラムが定める授業科目の中から所定の単位を修得した者に、プログラム修了証を授与することができる。

(雑目1)

第22条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、研究科委員会が別に定める。

※各種規則は改正となる場合があります。学内掲示および国立大学法人茨城大学規則集(http://houki.admb.ibaraki.ac.jp/)にて最新の規則を確認して下さい。

専攻名:機械システム工学専攻

(前学期) 第1学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期1~8週目】

<u></u>	14 ,	上朔) 第1十朔 【1	_子前(4.4.2.2.2.2.7.4.2.7.4.2.2.2.2.2.2.2.2.2.		子朔1、0四日】		
曜	年	1	2	3	4	5	
日	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30	
					原子力エネルギー工学特論		
	1				(田中 伸厚) W1棟401a		
月	1					◎機械システム工学輪講Ⅰ	
						(機械システム工学専攻教員)	
	2						
		<u></u>		熱力学特論		原子力材料工学特論 I	
		(稲垣 照美) W1棟401a		(田中 光太郎) W1棟401a		(菊地 賢司) W1棟401a	
مان	1		情報システム特論	デジタル制御特論	脳科学特論	機械学習特論	
火							
			(岩崎 唯史) E2棟408	(近藤 良) E2棟408	(星野 修) E2棟2Fセミナー室	(鈴木 智也) E2棟408	
	2						
		機構学特論		◎機械システム工学特別実験 Ⅰ			
	1	(道辻 洋平) W1棟401a		(機械システム工学専攻教員)			
水	1		機械システム設計特論I				
			(清水 淳) E2棟408				
	2			◎機械システム工学特別演習 I			
		666 ± 4.441 \ /+ + + - 61° 4+ ⇒ Λ	店 フ に 排 ツ エ 兴 射 3A	(機械システム工学専攻教員)	<u> </u>	4. → +n → ++ 45 4+ → ^	
	1		原子炉構造工学特論			生産加工技術特論	
木		(乾 正知) E2棟2Fセミナー室 ◎機械システム工学特別輪講Ⅲ	(関東 康祐) W1棟401a			(周 立波) E2棟408	
	2	◎機械システム工学特別無講!!! (機械システム工学専攻教員)					
	1		情報システム特論		デジタル制御特論		
金	1		(岩崎 唯史) E2棟408		(近藤 良) E2棟408		
	2						
					i		

(前学期) 第2学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期9~16週目】

年次	1	9	9	1	
次		2	ى ت	4	5
	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
1		非線形ダイナミクス特論	計測工学特論Ⅱ	計測画像処理特論	
1		(今村 仁) W1棟401a	(小貫 哲平) E2棟408	(尾嶌 裕隆) E2棟408	
2					
			熱機関学特論		材料設計学特論
1			(金野 満) W1棟401a		(倉本 繁) E1棟34
1		数値計算法特論	統計的信号処理特論	介助ロボット工学特論	
		(坪井 一洋) E2棟2Fセミナー室	(関根 栄子) E2棟2Fセミナー室	(森 善一) E2棟2Fセミナー室	
2					
1		機械システム設計特論II	◎機械システム工学特別実験 I		
1		(清水 淳) E2棟408	(機械システム工学専攻教員)		
2			◎機械システム工学特別演習 I (機械システム工学専攻教員)		
			材料設計学特論	原子力材料工学特論Ⅱ	非線形ダイナミクス特論
1			(倉本 繁) E1棟34	(菊地 賢司) W1棟401a	(今村 仁) W1棟401a
1		発展ロボット工学特論	人工知能特論	計測画像処理特論	
		(福岡 泰宏) E2棟408	(竹田 晃人) E2棟408	(尾嶌 裕隆) E2棟408	
2					
1	計測工学特論 I		統計的信号処理特論	医用工学特論	
1	(小貫 哲平) E2棟408		(関根 栄子) E2棟2Fセミナー室	(増澤 徹) W1棟401a	
2					
	1 2 1 2 1	1 2 1 2 1 1 2 2 1 1 1 1 2 2 1 1 (小賈 哲平) E 2棟408	2 数値計算法特論 (坪井 一洋) E2棟2Fセミナー室 2 機械システム設計特論II (清水 淳) E2棟408 2 整展ロボット工学特論 (福岡 泰宏) E2棟408 2 計測工学特論 I (小貫 哲平) E2棟408	2 熟機関学特論 (金野 満) W1棟401a 数値計算法特論 (坪井 一洋) E2棟2Fセミナー室 (関根 栄子) E2棟2Fセミナー室 2 機械システム設計特論II (清水 淳) E2棟408 (機械システム工学特別実験 I (携械システム工学専攻教員) 2 一様検システム工学専攻教員) 3 大料設計学特論 (倉本 繁) E1棟34 4 発展ロボット工学特論 (倉本 繁) E1棟34 2 大工知能特論 (福岡 泰宏) E2棟408 2 統計的信号処理特論 (竹田 晃人) E2棟408 4 統計的信号処理特論 (別根 栄子) E2棟2Fセミナー室	2 熟機関学特論 (金野 満) W1棟401a 数値計算法特論 (坪井 一洋) E2棟2Fセミナー室 (関根 栄子) E2棟2Fセミナー室 (森 善一) E2棟2Fセミナー室 2 機械システム設計特論II (清水 淳) E2棟408 (機械システム工学特別実験 I (機械システム工学専攻教員) 2 一般機校システム設計特論II (機械システム工学専攻教員) 3 一般機械システム設計特論II (機械システム工学専攻教員) 4 「特別設計学特論 (機械システム工学専攻教員) 5 上棟408 (株地 賢司) W1棟401a 4 発展ロボット工学特論 (有本 繁) E1棟34 (株地 賢司) W1棟401a 5 発展ロボット工学特論 (福岡 泰宏) E2棟408 (作用 晃人) E2棟408 (尾嶌 裕隆) E2棟408 2 「計測工学特論 (福岡 泰宏) E2棟408 (作用 晃人) E2棟408 (尾嶌 裕隆) E2棟408 2 「計測工学特論 (関展 栄子) E2棟2Fセミナー室 (増澤 徹) W1棟401a

	◎印は必修科目、無印かつ無色は必修科目以外のプログラム横断科目 ・・・「環境エネルギープログラム」のプログラムコア科目	
備	···「 原子力システムプログラ ム」のプログラムコア科目	
D113	···「 デジタル製造プログラム 」のプログラムコア科目	
考	···「スマート加工プログラム」のプログラムコア科目	
	・・・「 知能機械プログラム 」のプログラムコア科目	集中;中性子ビーム実習
	···「 ライフサポートプログラム 」のプログラムコア科目	機械システム工学専攻学外実習

専攻名;機械システム工学専攻

(後学期) 第3学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期1~8週目】

ı—	÷		-331\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \				— <u></u> 一一正// •		<u>1 231 T</u>			
曜	TLIST.	年	1		2			3		4	į	5
E		次	8:40~10:10		10:20~	11:50	12:40 ⁻	~14:10	14:20	~15:50	16:00	~17:30
		1		アク	クチュエータ工学	兰特論	流体機械工学特	論	原子炉物理学料	持論		
月		1		(北	尘山 文矢)	W1棟401a	(西 泰行)	W1棟401a	(秋江 拓志)	W1棟401a		
,		2										
	4											
		1	鉄鋼材料学特論	材料	料強度学特論						Off-Clas	ssProject
丛	_	1	(小林 純也) W1棟40	1a (森	秦 孝太郎)	W1棟401a					On Clas	sar roject
		2							メカトロニクス特言	論 I		
		۷							(休講)			
		1					◎機械システム (機械システム					
力		2					◎機械システム	L学特別演習II				
F	╬	_					(機械システムエ		T	. 2011.11	T	
		1	鉄鋼材料学特論	材料	料強度学特論		流体機械工学特	論	アクチュエータコ	[字特論	Off-Clas	ssProject
オ	₹	_	(小林 純也) W1棟40	1a (森	秦 孝太郎)	W1棟401a	(西 泰行)	W1棟401a	(北山 文矢)	W1棟401a		
		2										
	Ī	1		核層	融合エネルギー	工学特論			Off CI-	Dit	先進エネルギー	材料特論
金	251	1		(鈴:	計 哲)	W1棟401a			Off-Cla	ssProject	(二川 正敏)	W1棟401a
		2										

(後学期) 第4学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期9~16週目】

_ \ t	<u> </u>	<u> </u>	_于的(4.少地区/于	千年歴 カレンダー 俊	于朔5、10阿日】	
曜日	年	1	2	3	4	5
H	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
		◎機械システム工学輪講Ⅱ	生体材料工学特論		生体機械工学特論	
	1	(機械システム工学専攻教員)	(尾関 和秀) W1棟401a		(長 真啓) W1棟401a	
月	1			塑性変形学特論		高分子材料学特論
				(伊藤 吾朗) E2棟408		(中村 雅史) E2棟408
	2					
		機械力学特論	流体力学特論	エネルギー安全工学特論	精密加工学特論	機械材料工学特論
火				(松村 邦仁) W1棟401a		
	1	(清水 年美) W1棟401a			生体機能計測学特論	(+) (1) (1)
人				(楊 子江) E1棟3A		
	_		(妊療 久) E21米408	(物 丁仁) 上1(米3A	(文田 作元) E2株408	
	2					
	1	機械工作法特論		◎機械システム工学特別実験Ⅱ		
水	1	(伊藤 伸英) W1棟401a		(機械システム工学専攻教員)		
	2			○機械システム工学特別演習Ⅱ(機械システム工学専攻教員)		
		材料力学特論			流体力学特論	機械力学特論
		(未 定) W1棟401a		(尾関 和秀) W1棟401a		(清水 年美) W1棟401a
木	1		コンピュータ科学特論		移動ロボット工学特論	(1177. 1 70)
//<					(城間 直司) E2棟408	
	2		(144-164)	() I () () () () () () () () () () () () ()	(%间 直引) 12/4400	
	Ē					1
				精密加工学特論		先進エネルギー材料特論
	1	(井上 康介) E2棟408	(松村 邦仁) W1棟401a	(山崎 和彦) W1棟401a	(車田 亮) W1棟401a	(二川 正敏) W1棟401a
金			知能情報学特論	アドバンスト制御工学特論		
			(近藤 久) E2棟408	(楊 子江) E1棟3A		
	2					

	◎印は必修科目、無印かつ無色は必修科目以外のプログラム横断科目・・・・「環境エネルギープログラム」のプログラムコア科目	
備	・・・・「 原子力システムプログラ ム」のプログラムコア科目 ・・・「 デジタル製造プログラム 」のプログラムコア科目	
考	···「スマート加工プログラム」のプログラムコア科目	
	···「知能機械プログラム」のプログラムコア科目 ···「ライフサポートプログラム」のプログラムコア科目	集中講義;機械システム工学専攻学外実習 メカトロニクス特論Ⅱ

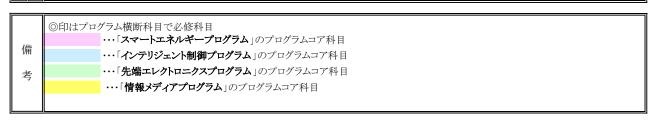
専攻名;**電気電子システム工学専攻**

(前学期) 第1学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期1~8週目】

	<u>, 13</u>	<u>'' '</u>	<u> </u>	<u>- 1 14 (H 72 16 15) J</u>			
		年	1	2	3	4	5
F	1	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
Г		1	情報伝送システム	アクチュエータ制御	レーザーエネルギー工学	エネルギーデバイス工学	特別輪講
J	₹	1	(那賀 明) E1棟33	(杉谷 栄規) E6棟4F講義室	(辻 龍介) E3棟204	(小峰 啓史) E3棟204	(電気電子システム工学専攻教員)
		2					
Г		1	環境・電力エネルギー工学		デジタル回路設計	ワイヤレスネットワーク	◎先端電気電子工学トピックス
1	k	1	(田中 正志・ 柳平 丈志) E6棟4F講義室		(武田 茂樹) E1棟23	(梅比良 正弘) E1棟34	(オムニバス) E1棟33
		2					
Γ		1					
7.	ĸ.	0					
L		2					
		1	信号処理回路	核融合プラズマ工学	パワーエレクトロニクス応用		
>	k	1	(塚元 康輔) E1棟34	(三枝 幹雄) E1棟41	(鵜野 将年) E6棟4F講義室		
		2					
		1			ナノエレクトロニクス工学	センシングネットワーク	◎電気電子工学特別研究 I
1	È.	1			(青野 友祐) E1棟42	(王 瀟岩) E3棟204	(電気電子システム工学専攻教員)
`	ا	2					◎電気電子工学特別研究Ⅲ
		۷					(電気電子システム工学専攻教員)

(前学期) 第2学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期9~16週目】

-	<u>(13</u>	<u> 1</u>		5十时(日本地区/月	一十進みレンプ 前	于朔3~10週日】	
		年	1	2	3	4	5
L	╛	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
		1			レーザ工学		特別輪講
	月	1			(中村 真毅) E1棟21		(電気電子システム工学専攻教員)
		2					
F	T	1	パワーデバイス	ナノ物性工学	電磁エネルギー工学		◎先端電気電子工学トピックス
,	k	1	(鵜殿 治彦) E1棟23	(和田 達明) E6棟4F講義室	(内田 晃介) E6棟4F講義室		(オムニバス) E1棟33
		2					
		1		認知システム工学	光通信システム工学		
7	ĸ	1		(矢内 浩文) E3棟204	(本田 奈月) E6棟4F講義室		
		2					
F		1		核融合プラズマ工学			
-	木	1		(三枝 幹雄) E1棟42			
		2					
ľ		1		システムインタフェース		コンピュータネットワーク	◎電気電子工学特別研究 I
金	÷	1		(山田 光宏) E3棟204		(宮島 啓一) E1棟34	(電気電子システム工学専攻教員)
1	-	2					◎電気電子工学特別研究III
1		۷					(電気電子システム工学専攻教員)



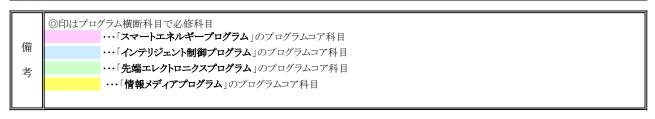
専攻名;**電気電子システム工学専攻**

(後学期) 第3学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期1~8週目】

$\overline{}$	<u> </u>	<u> 上海1 </u>	<u> </u>		于朔1 "0四日』	
	年		2	3	4	5
目	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
	1		情報光学			テクニカルプ・レセ・ンテーション
月	1		(鵜野 克宏) E3棟204			(電気電子システム工学専攻教員)
	2					
T			アナログ回路設計	光エレクトロニクス応用		◎組込みシステム実践
火	$\begin{bmatrix} 1 \\ \end{bmatrix}$		(木村 孝之) E1棟31	(今井 洋) E3棟204		(電気電子システム工学専攻教員)
	2					
Ī	,					
水	. 1					
	2					
	Ϊ,				電機システム解析	知能工学
 木	: 1				(祖田 直也) E6棟4F講義室	(上原 清彦) E5棟205
	2					
	1					◎電気電子工学特別研究Ⅱ
金	$\prod_{i=1}^{1}$					(電気電子システム工学専攻教員)
"	2					◎電気電子工学特別研究Ⅳ
	-					(電気電子システム工学専攻教員)

(後学期)第4学期【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期9~16週目】

	年	1	2	3	4	5
日	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
	1	マルチエージェント制御	通信信号処理	非線形システム解析	マルチメディア通信工学	テクニカルプ・レセ・ンテーション
月	1	(杉谷栄規) E3棟204	(宮嶋 照行) E3棟203	(赤羽 秀郎) E3棟204	(青笹 真一) E1棟3B	(電気電子システム工学専攻教員)
	2					
	1	電気・機械エネルギー変換工学			大電流エネルギー工学	◎組込みシステム実践
火	1	(岩路 善尚) E6棟4F講義室			(柳平 丈志) E6棟4F講義室	(電気電子システム工学専攻教員)
	2					
	1		光通信メディア工学			
水	1		(横田 浩久) E3棟204			
	2					
	1				超伝導エレクトロニクス	
木	1				(島影 尚) E6棟4F講義室	
	2					
	1	電気・化学エネルギー変換工学	光デバイス工学		プラズマ応用工学	◎電気電子工学特別研究Ⅱ
金	1	(田中 正志) E6棟4F講義室	(渡邉 ひろし) E6棟4F講義室		(佐藤 直幸) E3棟204	(電気電子システム工学専攻教員)
<u>1</u> 2.	2					◎電気電子工学特別研究Ⅳ
						(電気電子システム工学専攻教員)



専攻名: **情報工学専攻** (前学期) 第1学期【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期1~8週目】

		1 ya1 1 ya1 1 ya1 1 -	T-1-Hb (H-T-50 EZ)	1 1 /HE/* * / 1.	10 1 WIT OVE H I	
	年	1	2	3	4	5
日	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
	1		[組]◇組込みシステム開発論	[シ]ネットワークプログラム設計		
月	1		上田賀一 S1-703	大瀧保広 S1-703		
7	2					
	~					
	1	[シ]システム工学特論	[科]計算機知能特論 I	[マ]◇インフォメーションモデル論	◎◇情報工学特別研究 I	
火	1	鎌田賢 S1-703	山田孝行 S1-102	岡田信一郎 S1-703	専攻教員	
	II I				◇情報工学特別研究Ⅲ	
	2				専攻教員	
	1	[シ]通信方式特論	[科]◇知能情報学特論	[組][共]◇ LSI設計・開発技術	f論〈隔週〉 武田茂樹 S1-703	
-h	1	羽渕裕真 S1-102	笹井一人 S1-102	[経][共]◇ソフトウェアビジネスモ	デル論〈隔週〉大野克己 S1-703	
水	2					
		[共]情報ネットワーク論	[マ]◇Web工学特論		◎◇情報工学特別研究 I	
	1	小澤佑介 E1-32	外岡秀行 S1-703		専攻教員	
 	1	[共]データ解析論				
		野口宏 E1-31				
	2				◇情報工学特別研究Ⅲ	
					専攻教員	
	1	[デ]数理データ科学特論	[デ]人工知能特論		◎◇情報工学特別研究 I	
金		佐々木稔 S1-102	古宮嘉那子 S1-102		専攻教員	
1 214	2				◇情報工学特別研究Ⅲ	
					専攻教員	

(前学期) 第2学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期9~16週目】

曜	年	1	2	3	4	5
日	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
	1	大学院共通専用バンド	[マ]◇エンタープライズソフトウェア工学	[組]◇生体情報計測演習		
月	_		上田賀一 S1-703	芝軒太郎 S1-102		
)1	2					
	1	[デ]機械学習特論	◎◇ ICTソリューション実践 I		◎◇情報工学特別研究 I	
火	1	新納浩幸 S1-102	上田, 笹井, 芝軒, 原	コ,髙橋 S1-102·703	専攻教員	
	2				○◇情報工学特別研究Ⅲ	
	_				専攻教員	
	1	[経]◇情報技術経営論	[科]理論計算機科学特論	[組][共]◇ LSI設計·開発技術	f論〈隔週〉 武田茂樹 S1-703	
7/2	1	原口春海 S1-102	藤芳明生 S1-102	[経]◇ビジネスモデル事業戦略	A論〈隔週〉 大野克己 S1-703	
1/1/	2					
	1	[経]情報経済学	[デ]情報セキュリティ演習	[共]ユーザエクスペリエンス論	◎◇情報工学特別研究 I	
 		野口宏 S1-102	米山一樹 S1-102	柴田傑 E1-42	専攻教員	
'	2				○◇情報工学特別研究Ⅲ	
	Ľ				専攻教員	
	1	[マ]◇エンタープライズソフトウェア工学演習		中均 S1-703	◎◇情報工学特別研究 I	
金	Ĺ	大瀧保広 S1-703	[経]◇企業戦略特講 村	中均 S1-703	専攻教員	
1	2				○◇情報工学特別研究Ⅲ	
	~				専攻教員	

◎印は必修科目、◇印は先進創生ITコース科目、○印は先進創生ITコース必修科目、▲印は理工学研究科共通科目(LSI設計・開発技術特論)、[1]は1単位科目 [シ] ・・・・「**情報システムプログラム**」のプログラムコア科目 [経]・・・プログラム横断の「経営系」科目 備 [科] ····「**情報科学プログラム**」のプログラムコア科目 [組]・・・プログラム横断の「組込み系」科目 ····「**情報マネジメントプログラム**」のプログラムコア科目 [デ]・・・プログラム横断の「データ科学系」科目 [7] 考 ◇情報産業インターンシップ 実施時期:12~1月 休 講: [組]◇組込みソフトウェア工学, [シ]◇ヒューマンインタフェース設計 enPiT 科目: プロジェクト実践ワークショップ(2単位,夏期集中) 筑波大学担当 イニシアティブプロジェクト I (2単位,後期集中)※他大学の学生とチームを組んで,ビジネスアプリを開発します.

専攻名: **情報工学専攻** (後学期) 第3学期【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期1~8週目】

	<u> </u>	<u> </u>	上于时(日土地区)	于十座 ルレンプー	女子朔1 "0週日』	
. –	年	1	2	3	4	5
日	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
月	1		◎◇ ICTソリューション実践Ⅱ			
	1		上田, 笹井, 芝軒, 原口	口,髙橋 S1-102·703		
7	2					
		[シ]システム工学演習	[科]計算機知能特論Ⅱ		◎◇情報工学特別研究Ⅱ	
	l , l	鎌田賢 S1-703	山田孝行 S1-102		専攻教員	
火	1	[マ]デザインパターン演習	[マ]◇バーチャルデザイン演習			
		岡田信一郎 S1-102	柴田傑 S1-703			
	2				◇情報工学特別研究Ⅳ	
	Ľ				専攻教員	
		[シ]ディジタル通信特論	[シ]無線通信技術論	[組][共]◇リアルタイム組込みシ		
	1	羽渕裕真 S1-102	7 17 17 01 100	[組][共]◇リアルタイムプログラミ	ングとRTOS 小泉忍 S1-703	
1 7k	1	[マ]情報メディア応用演習	[科]理論計算機科学演習			
1,1		佐々木稔 S1-703	藤芳明生 S1-102			
	2					
L						
		[科]◇データマイニング特論	2 2 4 114 171 111 1111		◎◇情報工学特別研究Ⅱ	
	1	新納浩幸 S1-102	米山一樹 S1-102		専攻教員	
 ★		[マ]情報システムモデル	[科]◇知識情報処理演習			
'	Ш	高橋竜一 S1-703	古宮嘉那子 S1-703		<u> </u>	
	2				◇情報工学特別研究Ⅳ	
\vdash	Н	[] ki			専攻教員	
	1	[デ]グローバル情報処理特論			◎◇情報工学特別研究Ⅱ	
金	\parallel	外岡秀行 S1-102			専攻教員	
712	2				◇情報工学特別研究Ⅳ	
	II I				専攻教員	

(後学期) 第4学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期9~16週目】

曜		1	2	3	4	5
目	次	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
月	1					
Л	2					
火	1				◎情報工学特別研究 II 専攻教員	
	2				○情報工学特別研究IV 専攻教員	
水	1					
/1/	2					
木	1				◎情報工学特別研究Ⅱ 専攻教員	
//	2				○情報工学特別研究IV 専攻教員	
金	1				◎情報工学特別研究 II 専攻教員	
亚	2				○情報工学特別研究IV 専攻教員	

		料目、◇印は先進創生ITコース科目、○印は先進創生ITコース必修科目、 产研究科共通科目(組込みシステム開発特論)、[1]は1単位科目	
備	[シ]	・・・・「 情報システムプログラム 」のプログラムコア科目	[経]・・・プログラム横断の「経営系」科目
	[科]	···「 情報科学プログラム 」のプログラムコア科目	[組]・・・プログラム横断の「組込み系」科目
考	[7]	・・・・「 情報マネジメントプログラム 」のプログラムコア科目	[デ]・・・プログラム横断の「データ科学系」科目
	集中講義: 休 講:	◇情報産業インターンシップ 実施時期:12~1月 [組]◇組込みソフトウェア工学, [シ]◇ヒューマンインタフェース設計	

専攻名; **都市システム工学専攻**

(前学期) 第1学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期1~8週目】

曜	年	講時	1	2	3	4	5	
日	次	時間	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30	
		社会基盤	地盤防災工学特論	建築材料学特論	土木計画学特論 (金利昭) S2棟2F大学院講義室 建築構造デザイン学特論	国土空間情報特論	応用水理学特論 (信岡尚道) S2棟2F大学院講義室	
_	1	建築	(榎本忠夫) S2棟2F大学院講義室	(沼尾達弥) E1-3A	(成田和彦) E1-3A	(桑原祐史) S2棟2F大学院講義室		
月		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
		サステナ		1# \4- 67.4C \\ 10- 14- 3\				
		社会基盤	1.55 T 24 Ht 3/	構造解析学特論 (車谷麻緒) \$2棟2F大学院講義室		74かかー・ベバク・マカン・LI		
١.	1	建築	水質工学特論 (藤田昌史) S2棟2F大学院講義室	建築都市計画学特論 (熊澤貴之) E1-4B		建築都市デザインスタジオI (熊澤貴之) E1-4B, S2棟104		
火		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
		サステナ						
		社会基盤	社会基盤デザイン特別演習 I (各指導教員)	The help large large with a series	18 1	74.66.11	dol Maria	
	1	建築	建築デザイン特別演習 I (各指導教員)		ドインスタジオⅠ E1-4B, S2棟104	建築材料演習 (舟川 勲) E1-3A		
水		サステナ	サステイナビリティ学特別演習 I (各指導教員)					
		社会基盤				社会基盤デザイン特別研究 I		
	2	建築				建築デザイン特別研究 I		
-		サステナ			1.31 - 34 (4.3)	サステイナビリティ学特別研究 I		
		社会基盤	14. 60.04. // 2/. 44. 3/.	745 645 1- 1-101 324 414 324	土木計画学特論 (金利昭) S2棟2F大学院講義室		応用水理学特論 (信岡尚道) S2棟2F大学院講義室	
	1	建築	地盤防災工学特論 (榎本忠夫) S2棟2F大学院講義室	建築材料学特論 (沼尾達弥) E1-3A	建築構造デザイン学特論 (成田和彦) E1-3A	国土空間情報特論 (桑原祐史) S2棟2F大学院講義室		
木		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
		サステナ						
		社会基盤		構造解析学特論 (車谷麻緒) S2棟2F大学院講義室				
	1	建築	水質工学特論 (藤田昌史) S2棟2F大学院講義室	建築都市計画学特論 (熊澤貴之) E1-4B		建築都市デザインスタジオI (熊澤貴之) E1-4B, S2棟104		
金		サステナ		<u> </u>				
1		社会基盤						
1	2	建築				-		
		サステナ		•		·		

(前学期) 第2学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期9~16週目】

	1 M/ M/2 1 M L 1 HP (H I Z/ZE/) 1 III M/2 I C/M H]							
曜	年	講時	1	2	3	4	5	
日	次	時間	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30	
		社会基盤						
			建築構造デ	デザイン溶羽				
	1	建築	(成田和彦)	S2棟2F大学院講義室				
月		サステナ	(/// == (-/->/	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
		社会基盤						
	2	建築 サステナ						
						応用土質力学特論		
		社会基盤				(小林董) E1-3B		
	1	建築	建築環境設計学特論	建築史·意匠特論		建築都市デザインスタジオII		
١.	1	走来	(<u></u>	(一ノ瀬彩) S2棟2F大学院講義室		(久野靖広) E1-4B, S2棟104	T	
火		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
		サステナ						
		社会基盤				社会基盤デザイン特別演習 I		
		工工品画		み か初十ごり	┃ 『インスタジオⅡ	(各指導教員)		
	1	建築		(久野靖広)	「インスタンオコ E1-4B, S2棟104	建築アザイン特別便省 I (各指道新昌)		
水		サステナ		(人到相瓜)	L1 4B, 524×104	社会基盤デザイン特別演習 I (各指導教員) 建築デザイン特別演習 I (各指導教員) サステイナビリティ学特別演習 I		
/14						(合指导教員)		
		社会基盤				社会基盤デザイン特別研究 I		
	2	建築				建築デザイン特別研究 I		
		サステナ				サステイナビリティ学特別研究 I		
		社会基盤						
		建築	建築構造デ	・ザイン演習		建築材	*料演習	
	1	建架	(成田和彦)	S2棟2F大学院講義室		(舟川 勲)	E1-3A	
木		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
	-	サステナ						
		社会基盤				応用土質力学特論		
		山云巫监	74.447.49.132.20.21.22.24.24	74. /** -1. 37. [2] (4* 3/)		(小林薫) E1-3B 建築都市デザインスタジオⅡ		
	1	建築	建築環境設計学特論 (計村壮平) S2棟2F大学院講義室	建築史・意匠特論 (一ノ瀬彩) S2棟2F大学院講義室		建築都市テサインスタシオII (久野靖広) E1-4B, S2棟104		
金			(江州) 仁平) 52棵2F天学院講義至	□ / (粗彩) S2悚2F天字院講義至		(人野頃広) E1-4D, 52棟104	I	
215		サステナ						
		社会基盤						
	2	建築						
		サステナ				·		

	・・・「都市システム工学専攻」のプログラム横断科目	···「 建築デザインプログラム 」のプログラムコア科目
	「 社会基盤デザインプログラム 」のプログラムコア科目	「 サステイナビリティ学プログラム 」のプログラムコア科目
備考	集中講義; 都市システム工学専攻学外実習 (専攻教員) 建築実務実習 サステイナビリティ学インターンシップ (専攻教員) ワークショップ 紹用 サステイナビリティ学最前線 (他専攻)田村、横木 国際実践教育演習 (他専攻)田村・伊藤・長田 国内実践教育演習 (他専攻)田村・伊藤・長田	ファシリテーション能力開発演習 I (他専攻)山岸 裕 ファシリテーション能力開発演習 II (他専攻)山岸 裕 問題発見解決実習 II (博攻教員) 問題発見解決実習 II (専攻教員) 問題発見解決実習 II (専攻教員) 都市システム工学特別講義 II (専攻教員) 最先端技術特論 (専攻教員)

専攻名; **都市システム工学専攻**

(後学期) 第3学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期1~8週目】

曜	年	講時	1	2	3	4	5
日	次	時間	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
		社会基盤	交通計画特論 (山田稔) S2棟2F大学院講義室				
	1	建築		地震工学特論 (呉智深) S2棟2F大学院講義室			
月		サステナ					
		社会基盤					
	2	建築					
		サステナ					<u> </u>
		社会基盤					
	1	建築	維持管理工学特論 (呉智深) S2棟2F大学院講義室			建築都市デザインスタジオⅢ (内藤将俊) E1-4B, S2棟104	
火		サステナ				沿岸環境形成工学特論 (横木裕宗) S2棟2F大学院講義室	沿岸環境形成工学特論 (横木裕宗) S2棟2F大学院講義室
		社会基盤					
	2	建築					<u> </u>
		サステナ				41 A 17 00 - 11 A 04 0 (V2) 3 T	
	1	社会基盤				社会基盤デザイン特別演習 II (各指導教員)	
		建築		建築都市デザ (内藤将俊)	インスタジオ Ⅲ E1−4B, S2棟104	建築デザイン特別演習 II (各指導教員)	
水		サステナ				サステイナビリティ学特別演習 II (各指導教員)	
		社会基盤				社会基盤デザイン特別研究Ⅱ	
	2	建築				建築デザイン特別研究Ⅱ	1
		サステナ				サステイナビリティ学特別研究Ⅱ	<u> </u>
		社会基盤	交通計画特論 (山田稔) S2棟2F大学院講義室	Ut = 24 t4 24			
	1	建築		地震工学特論 (呉智深) S2棟2F大学院講義室			
木		サステナ					
	_	社会基盤					1
	2	建築					<u> </u>
		サステナ					<u> </u>
		社会基盤					
	1	建築	維持管理工学特論 (呉智深) S2棟2F大学院講義室			建築都市デザインスタジオⅢ (内藤将俊) E1-4B, S2棟104	
金		サステナ					
		社会基盤					
	2	建築					1
		サステナ					1

(後学期) 第4学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期9~16週目】

曜			1 \\ \) \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	2	3	4	5
日	次	時間	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
П	į,		0.40 10.10	10.20 11.50	12.40 14.10	14.20 15.50	10.00 17.50
		社会基盤					
	1	建築					
月				生態系保全再生・モニタリング特論	生能系保全再生・モニタリング特論		
Л		サステナ		(横木・増永) S2棟2F大学院講義室	(横木・増永) S2棟2F大学院講義室		
		社会基盤					
	2	建築サステナ					
	-			社会基盤情報処理特論	社会基盤情報処理特論		
		社会基盤		(原田隆郎) S2棟2F大学院講義室	(原田隆郎) S2棟2F大学院講義室		
	1	建築				建築環境ラ	デザイン演習
火	-					(辻村壮平)	E1-4B
久		サステナ					
		社会基盤					
	2	建築					
		サステナ				社会工般学せん/帳別演習Ⅱ	
		社会基盤				社会基盤デザイン特別演習Ⅱ (各指導教員)	
	1	建築				毎毎字# イン勝則海辺 T	
水	1					使業ノッイン特別演音 II (各指導教員) サステイナビリティ学特別演習 II	
八		サステナ				(谷指導教員)	
		社会基盤				社会基盤デザイン特別研究Ⅱ	
	2	建築サステナ				建築デザイン特別研究Ⅱ	
						サステイナビリティ学特別研究Ⅱ	
		社会基盤					
	1	建築					
木		11 1					
//<		サステナ					
		社会基盤					
	2	建築 サステナ					
		社会基盤				- 1. 64 1.	
	1	建築				建築環境ラ (計村壮平)	゛ザイン演習 E1-4B
金						(辻村壮平)	E1-4B
立		サステナ					
		社会基盤					
	2	建築					
	1	サステナ					1

	…「都市システム工学専攻」のプログラム横断科目 …「社会基 線デザインプログラム 」のプログラムコア科目	…「 建築デザインプログラム 」のプログラムコア科目 …「 サステイナビリティ学プログラム 」のプログラムコア科目
備考	集中講義 : 都市システム工学専攻学外実習 (専攻教員) (専攻教員) (専攻教員) (専攻教員) (専攻教員) サステイナビリティ学インターンシップ (専攻教員) ロークショップ 福用 サステイナビリティ学最前線 (他専攻)田村、横木 国際実践教育演習 (他専攻)田村・伊藤・長田 国内実践教育演習 (他専攻)田村・伊藤・長田	ファシリテーション能力開発演習 I (他専攻)山岸 裕 ファシリテーション能力開発演習 II (他専攻)山岸 裕 問題発見解決実習 II (専攻教員) 問題発見解決実習 II (専攻教員) 問題発見解決実習 II (専攻教員) 都市システム工学特別講義 I (専攻教員) 都市システム工学特別講義 I (専攻教員)

共通科目

E1棟;共通講義棟

E5棟;総合研究棟

水;水戸

W1棟;機械工学科棟 S1棟;情報工学科棟

(前学期) 第1学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期1~8週目】

(14.4	1 \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	T 1 HP (H T > 0 E)	1 1 /E/V - V /		
曜	1	2	3	4	5
日	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
月	[社会理解] 地球環境システム論 I	[英語] 国際コミュニケーション基礎A			
Л	横木·北 E1-10	田嶋 美砂子 E1-44			
火		応用数学特論	数理工学特論		
人		岡 裕和 E1-41	阿部 敏一 E1-3C		
		[英語] アカデミックプレゼンテーション	[情報] LSI設	計•開発技術論〈隔週〉 武田 🤅	茂樹 S1-703
水		若松弘子(非) 水戸CALL教室	[情報] ビジネスモデル設計認	侖〈隔週〉 大野 克己 S1-703	
714				[倫理]研究者倫理	[英語] 実践国際コミュニケーションA
				壁谷 彰慶 E1-10	田嶋 美砂子 E1-44
	[情報]情報ネットワーク論		学特論		
木	小澤佑介 E1-32	平澤 剛	E1-3C		
	[情報] データ解析論				
	野口宏 E1-31		1.00 6-	100 41 44	
	[情報] 計算機応用特論A			析特論	原子力連携ネット共通講座I
_	伊多波 正徳 S1-201		細川 卓也	E1-3B	関東・立花 W1-301
金					(16:45~18:15)
	[社会理解] 持続社会システム論 I				
	田村・蓮井 E1-41				

(前学期) 第2学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー前学期9~16週目】

	7747 214 - 4 774 -			11117/10 = -1011	
曜	1	2	3	4	5
日	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
月		[英語]国際コミュニケーション基礎B		[社会理解] 人間システム基礎論Ⅱ	[社会理解]先端科学トピックス I
Л		田嶋 美砂子 E1-44		上地·他 E1-41	島影・他 E1-41
火		応用数学特論	数理工学特論		[社会理解]製品技術開発特論
		岡 裕和 E1-41	阿部 敏一 E1-3C		多田 達也 E1-24
		[英語] アカデミックディスカッション	[情報] LSI設	計·開発技術論〈隔週〉 武田方	・
水		若松弘子(非) 水戸CALL教室			
八				[倫理]研究者倫理	[英語]実践国際コミュニケーションB
				壁谷 彰慶 E1-10	田嶋 美砂子 E1-44
木			[情報] ユーザエクスペリエンス論		
			柴田傑 E1-42		
	[情報] 計算機応用特論B				原子力連携ネット共通講座 I
金					関東・立花 W1-301
	伊多波 正徳 S1-201				(16:45~18:15)

◎印は大学院共通科目、◎印は日立開講研究科共通科目、 ◎印は水戸開講研究科共通科目、◎印は東海開講研究科共通科目
集中講義:◎科学と倫理、◎学術情報リテラシー、◎原子科学と倫理、◎バイオテクノロジーと社会

備

○LSI設計·開発技術特論

○データ解析論

 \triangle 現代科学における倫理、 \triangle 社会における科学技術、 \triangle 科学史、 \triangle 科学技術特論

△先端科学トピックス I

◇量子ビーム応用解析

休 講

考

注意事項:担当教員の都合により、この時間割のとおりに開講しないことがあります。

必ず、教務ポータルシステムや掲示板を確認してください。

共通科目

(後学期) 第3学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期1~8週目】

.,,,,	1 1911 110 1 191 1	T 1 HP (P T P D D)	* 1 /222	N 1 /91	
曜	1	2	3	4	5
日	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
	[社会理解] 持続社会システム論Ⅱ				[社会理解] (水戸)組織運営とリーダーシップ
月	内田•他 E1-41				鬼澤 慎人 理学部第2講義室
71					[英語] 国際コミュニケーション演習A
					Gina Fidalgo E1-32
火					
	[社会理解]人間システム基礎論 I	[体却] 偶応体却もいっこが触込	「体却」如うフィッコニ)明が射	- 3	[社会理解](北京) 研究1.教玄
			[情報] 組込みシステム開発特		[社会理解](水戸) 研究と教育
水	伊藤·他 E1-41	湊淳 E1-41	[情報] 組込みプログラミングと	CRIOS 小泉念 SI-703	片口·他 教育学部B-312
			[英語] 国際コミュニケーション演習B		
			岩重 理香 E1-3B		
木					
		[社会理解] 地球環境システム論Ⅱ			原子力連携ネット共通講座Ⅱ
金		岡田誠 E1-41			松村・立花 W1-301
		山村靖夫(非)			(16:45~18:15)
		田1141八(7F)			[英語](留学生)科学技術日本語特論
					村上 雄太郎 E1-3A

(後学期) 第4学期 【工学部(日立地区)学年歴カレンダー後学期9~16週目】

曜	1	2	3	4	5
日	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
月			[英語] 国際コミュニケーション演習C		[社会理解] (水戸)組織運営とリーダーシップ
月			大畠玲子 理学部第1講義室		鬼澤 慎人 理学部第2講義室
火					
水			[英語] 国際コミュニケーション演習D		[社会理解](水戸) 研究と教育
//\			岩重理香 E1-3B		片口·他 教育学部B-312
木					
					原子力連携ネット共通講座Ⅱ
金					松村・立花 W1-301 (16:45~18:15)
					[英語] (留学生)科学技術日本語特論
					村上 雄太郎 E1-3A

◎印は大学院共通科目、○印は日立開講研究科共通科目、

△印は水戸開講研究科共通科目、◇印は東海開講研究科共通科目

集中講義;◎知的所有権特論、◎地域サステイナビリティ農学概論、

◎Science of Food~Function, Processing, Safety~(食品の科学~機能、加工、安全~)

○データ解析論

△現代科学における倫理、△社会における科学技術、△科学史、△科学技術特論

△先端科学トピックスⅠ

◇量子ビーム応用解析

休 講 ;

備

考

注意事項:担当教員の都合により、この時間割のとおりに開講しないことがあります。

必ず、教務ポータルシステムや掲示板を確認してください。

E1棟;共通講義棟 E5棟;総合研究棟 W1棟;機械工学科棟 S1棟;情報工学科棟 水;水戸

《工学部E1棟教室配置図》

